



[衣笠キャンパス]

法学部

在学生・卒業生 VOICE

WEB

法学科

法政展開／司法特修／公務行政特修

現代社会に生きる法と政治を学ぶ

法学部には法曹を目指す学部というイメージがあると思います。確かに、裁判官、検察官、弁護士といった司法の領域では、法学部で学んだ人たちが活躍しています。しかし、それらは法学部生の進路の一つに過ぎません。社会の基盤を支える公務員をはじめ、企業、民間団体の職場など社会のさまざまな場面で法の知識を持った人が、その能力を発揮しています。グローバルゼーションの中、公正な自由競争社会の実現のためにも法の遵守が必要で、日常的なビジネス取引の場面でもコンプライアンスの徹底が求められています。緻密な思考、論証・証拠に基づいた議論ができる法の専門家は、従来から社会の根幹を成すさま

ざまな分野で必要とされてきましたが、近年では、ビジネスの現場でも、法の知識を持った人材がより強く求められるようになってきました。

法学部は、設立以来、歴史と伝統を積み重ねる中で常に社会・市民との接点を意識し、法の知識を学ぶとともに、バランス感覚を磨き、弱者の立場で社会正義を追求する姿勢も大切に守ってきました。このような伝統を継承しながら、常に社会と向き合い、時代にふさわしい法と政治を追求して、生きた知識を学んでください。

4年間の学び



・上記は2026年度のカリキュラムです。科目名称などが変更になる場合があります。
 ・一部科目を除き専門科目は法学部生全員が受講可能です。
 ・特修では必ず受講登録しなければならない科目があります。
 ・「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「社会に生きる法」「法学入門」「政治学入門」「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究」は必ず受講登録しなければなりません。
 ・特修は1回生時の成績によっては、選択できない場合があります。

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

カリキュラムについての詳細は [▶](#)

外国語の選択 [必修] 英語 [選択] ドイツ語／フランス語／スペイン語／中国語／朝鮮語
 英語を含めた2つの外国語が必修。国際社会で通用する高度な外国語運用能力を身に付けることを目標とします。

法学部英語展開プログラム 学部の専門性と英語運用能力を同時に高める法学部独自のプログラムを設置しています。

PICK UP 法学部独自の海外留学プログラム「法政海外フィールドスタディ」

法学・政治学に関する基礎的な知識や世界観を築き、より高次の学修へつなげることを目指す海外研修です。プログラムでは、イギリスやオーストラリア、アセアン諸国の大学等を訪問し、現地の法や政治を学ぶことで専門領域に対する関心を高め、英語で情報を収集・発信できる英語運用能力の基礎を築くことを目指します。

※これらのプログラムは、現地への渡航が安全でない判断された場合は、中止となることがあります。

詳しくは [学部HP](#)

プログラム・特修

法政展開

法学・政治学の基礎をしっかりと鍛えたいと、自分に合った現代社会のテーマを選ぶ。

法学・政治学は、社会で起きる紛争や利益の対立を、公正かつ公平に解決する方法を研究する学問です。国際化やボーダーレス化、IT技術の発展などともなっていて社会が複雑化するに従い、ルールの持つ意味が重要性を増しています。司法の場のみならずビジネスや行政においても、新たなルールづくりが求められる場面も少なくありません。将来、法学・政治学を軸に社会に貢献したいと考える学生を対象に5つの専門化プログラムを設け、専門領域を系統的に学修できる環境を整えています。

■現代社会の幅広いテーマに対応する5つの「専門化プログラム」

国際関係法	ビジネス・企業法	生活・環境法	刑事・人権法	政治・市民社会
国内外の法律を学び、国際的な企業活動に必要な世界経済や社会システムなどの要素を身に付けます。	民間企業や金融機関で必要とされる法律知識を修得し、応用可能な基本的能力を身に付けます。	市民生活に発生する環境・家族をめぐる諸問題に対して、法的に対処する基本的能力を身に付けます。	国家と行政権力との間で発生する市民の人権に関わる法的問題を理解し、専門的知識を修得します。	市民社会の立場から政府や国の活動、選挙や権力の問題を学ぶとともに、マスコミが政治へ与える影響を学びます。

司法特修

早い段階から高度な専門領域を学び、法科大学院進学レベルの力をつける。

法律専門職を養成する法科大学院（ロースクール）への進学を目指す学生が主な対象です。将来の希望を同じくする学生とともに学修を進めるので、早い段階から高いレベルにまで踏み込んだ知識の修得が可能です。2回生より、法科大学院への進学に必要な学力を身に付けられるよう、特修独自の科目を履修。法務研究科（法科大学院）専任教員が担当する科目も開講しています。また、模擬裁判を行う「訴訟法務入門演習」をはじめ、法律事務所で弁護士に仕事を学ぶ「法務実習」などの科目も充実しています。



CHECK! 法学部生による模擬裁判の一部をYouTubeでご覧いただけます ▶



■法曹進路プログラム〈法曹コース〉

法学部では、司法特修に「法曹進路プログラム」を設置しています。このプログラムは、2回生以降に登録し、法学部の基礎である7法（憲法・民法・刑法・商法・行政法・民事訴訟法・刑事訴訟法）について、より効率的・効果的に学修を進めます。このプログラムの修了により、立命館大学法科大学院、中央大学法科大学院、名古屋大学法科大学院および神戸大学法科大学院の特別選抜入試の受験資格を得ることができます。早期卒業制度を利用すれば、3年で法学部を卒業し（早期卒業）、特別選抜入試での法科大学院の合格／進学により5年間で司法試験の受験にチャレンジすることもできます。新しい情報はHPをチェックしてください。

詳しくは
学部 HPへ



公務行政特修

政治・行政の諸問題に対応できる法律の知識と政策立案能力を修得する。

将来、公務員を希望する学生が主な対象です。政策立案の領域では、2回生春学期に履修する「公務行政入門演習」で学びの土台となる基礎を固めた上で系統的にレベルアップ。一方、キャリア実現のための取り組みとして、公務員試験合格に向けての基礎的な実力を養うことができる「公務行政学演習」および「公務行政法演習」を、2回生秋学期に受講します。市役所などで公共の仕事を経験できる科目なども設置し、実社会で活躍するための実践的な力を身に付けます。



■市役所や公共機関で実務を体験。進路意識を高める「公共政策実習」

地方自治体や公共機関など公務の現場で実際の業務を体験する科目です。実習では現場が抱えている問題や、学問と行政、公共機関との関わりを学修。また、実習先から示される街づくりの課題などにも取り組んで政策提案を行います。実習とその効果をいっそう高めるための事前・事後の研修、さらに実習での発見や考察を自治体の職員と住民に対して発表する機会や実習報告会も設けて、プレゼンテーション能力の向上を図ります。実習レポートを作成することで、課題を発展的に探究し、論述する能力も養うことができます。

教員紹介・進路

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

青木 克也	〈労働法〉フランチャイズの労働者性（日独比較研究）
安達 光治	〈刑法〉刑法における因果関係と客観的帰属の理論
安保 寛尚	〈スペイン語〉米国帝国主義下におけるキューバのナショナリズムと黒人芸術運動
石橋 秀起	〈民法〉民法不法行為法における諸問題
石原 浩澄	〈英語〉20世紀の英文学研究と文学批評の動向
井畑 陽平	〈経済法〉デジタル市場における自由な競争と取引の公正性に関する研究
岩淵 重広	〈商法〉倒産局面にある会社の取締役の義務と責任、デジタル技術を用いた資金調達手法に対する法規制のあり方
植松 健一	〈憲法〉「安全」に関する憲法的考察、ワイマール議会制の研究
臼井 豊	〈民法〉デジタル遺品の法的運命、AIによる契約締結上の諸問題
Michael L. Wolf	〈英米法〉American Law, Contracts, Constitutional Law
大西 祥世	〈憲法〉企業における人権尊重責任、二院制議会における憲政と憲法
小田 美佐子	〈アジア法〉私法分野を中心とした中国法と日本法等の比較的研究
嘉門 優	〈刑法〉現代における刑事立法論、法益論の検討
菊地 諒	〈法哲学〉英米の法理論・法思想
木村 和成	〈民法〉人格権をめぐる諸問題の理論的検討／大審院（民事）判決形成過程の研究
倉田 原志	〈憲法〉労働関係における人権保障
藏藤 健雄	〈英語〉形式意味論、生成文法
河野 恵一	〈日本法史〉前近代日本、特に中〜近世社会における法と紛争解決のありかた
小堀 眞裕	〈比較政治〉イギリス現代政治、ヨーロッパ政治
佐藤 渉	〈英語〉現代オーストラリア文学
品谷 篤哉	〈商法〉内部者取引規制、取締役の忠実義務
清水 拓磨	〈刑事訴訟法〉司法取引、えん罪の防止とその救済
清水 円香	〈商法〉企業結合と取締役の義務責任
須藤 陽子	〈行政法〉警察法理論と比例原則
高橋 直人	〈西洋法史〉近代ドイツ刑事法（学）の成立と発展
多田 一路	〈憲法〉社会的民主主義、社会的経済的権利の保障または実現
田中 悠美子	〈民事訴訟法〉民事裁判手続における手続保障の在り方
谷 遼大	〈行政法〉参加権の基礎理論、環境法における権利
谷江 陽介	〈民法〉締約強制理論に関する研究
谷本 圭子	〈民法〉契約法において消費者概念がもつ法的意味についての研究
田原 憲和	〈ドイツ語〉19世紀におけるルクセンブルク語およびルクセンブルク文化研究
遠山 千佳	〈日本語〉第二言語における談話構築能力の発達

徳川 信治	〈国際法〉人権の国際的保障
徳久 恭子	〈政策形成論〉現代日本政治、教育政策、コミュニティ政策
中西 千香	〈中国語〉現代中国語における前置詞の機能分化、中国語教育におけるレリアの効果的活用
中谷 崇	〈民法〉私法上の錯誤・法律行為
西村 翼	〈現代日本政治論〉日本政治、議員・政党研究、特に議員による政治的代表
西村 めぐみ	〈国際政治学〉南コーカサスへの民主化支援と武力紛争後の移行期の正義措置
波多江 悟史	〈憲法〉ヨーロッパにおける放送の自由の比較研究
畑中 麻子	〈知的財産法〉知的財産の紛争解決に関する理論研究、現代社会における著作権法の基礎研究
植爪 誠	〈国際私法〉国際契約法の規整方法に関する体系的な研究
本田 稔	〈刑法〉刑法理論の歴史的形過程の分析、刑事判例の批判的検討
正木 宏長	〈行政法〉行政法と官僚制
松尾 剛	〈フランス語〉第三共和制下の政治と文学
宮井 雅明	〈経済法〉独占禁止法、国際取引に対する公法的規制
宮崎 正晴	〈知的財産法〉商標法、不正競争防止法における営業上の標識保護に関する新たな基礎理論の構築
村上 剛	〈政治心理・行動学〉投票行動におけるヒューリスティクスの機能と効果
森久 智江	〈刑事訴訟法・犯罪学〉修復的司法、犯罪行為者・非行少年の社会復帰と被害
安井 栄二	〈税法〉連結納税制度の研究
柳 至	〈行政学・地方自治論〉行政活動や地方自治体における公共政策に関する研究
山田 希	〈民法〉複数の契約関係における相互的な影響
山田 泰弘	〈商法〉株主代表訴訟、役員等の義務・責任、会社法制の立法史的研究
山本 和輝	〈刑法〉正当防衛論及び緊急避難論
山本 圭	〈政治理論・政治思想史〉現代政治理論・民主主義論
山本 忠	〈社会保障法〉障害のある人の総合的生活保障のための法政策的な研究
潮山 智之	〈国際法〉国家責任法を中心とした国際法の研究
吉岡 公美子	〈英語〉文学理論、20世紀アメリカ小説
吉次 公介	〈日本政治史〉戦後日本政治外交史
Jackson, Lachlan	〈英語〉教育学、社会言語学、国際結婚におけるバイリンガル子育て
渡辺 千原	〈法社会学〉科学、医療と裁判

詳しくはこちら ▶



より高度な学び〈大学院進学〉

法学部での学びをさらに深め、より高度な専門的知識を身に付けて、それを社会で活かしたい人には、大学院へ進学するという選択肢があります。立命館大学には、学部を基礎とする法学研究科や専門職学位課程をもつ法務研究科（法科大学院）があります。

▶ 法学・政治学をより究める

法学研究科 博士課程

「法学研究科」では、法学、政治学の研究者を養成する「研究コース」をはじめ、企業法務のスペシャリストや司法書士・税理士・公務員などを目指す「リーガル・スペシャル・コース」、学部での学修をもとに関心のある課題を学問的に深める「法政リサーチ・コース」の3コースを設けています。

研究科 HP



法学研究科 前期課程 2年 後期課程 3年

▶ 司法試験合格を目指す

法務研究科（法科大学院） 専門職学位課程

「法務研究科」は、法曹となる力を着実に身につけ、司法試験を経て、社会に信頼される法律家として活躍したいと思う人のための大学院です。授業は、法律家としての実務を強く意識した内容で、実習系の科目も充実しています。

研究科 HP



法務研究科

学内進学入試あり

特別選抜入試あり

法学部

標準修業年限4年

早期卒業

飛び級

法曹進路プログラム（法曹コース）

最短学部3年 + 法科大学院2年の5年で司法試験合格

▶ R018



[衣笠キャンパス]

産業社会学部



■ 現代社会学科

現代社会専攻／メディア社会専攻／スポーツ社会専攻／子ども社会専攻／人間福祉専攻

新たな価値を共創し、複雑多様化する現代社会の諸問題を解決する

産業社会学部は1965年に創設された、社会学系では国内有数の歴史と規模を誇る学部です。社会学を中心にして、経済学・政治学・産業学・労働学・政策・環境論・まちづくり・メディア・スポーツ・経営学・福祉学・教育学・心理学・歴史学・社会理論・文学・言語学などのさまざまな学問領域を置いています。それらに関連させながら、幅広い学際性と高い専門性をもって、さまざまな社会問題に多角的にアプローチしていくことのできる資質・能力の育成を目標にしています。その結果、新たな価値を共創し、多様な人々が共生する社会づくりに貢献することをめざします。

そのために、産業社会学部では、「現代社会専攻」「メディア

社会専攻」「スポーツ社会専攻」「子ども社会専攻」「人間福祉専攻」の5つの専攻を設置し、それぞれに独自のカリキュラムを展開しています。加えて、学生の多様な関心に応じて、専攻の壁を越えて領域横断的に幅広く学べる、クロスオーバー・ラーニングの仕組みを整えています。また、国内外でのフィールドワーク、理論的思考、データ分析を用いて、学生が主体的に問題を発見・解決するアクティブ・ラーニングを推進しています。

見えないものを見つめ、他者とともに広く深く考え、協働しながら自ら行動し、新たな知と価値を生み出す社会学的思考力を身につけることができる、それが産業社会学部の魅力です。

学び・プログラム

社会の諸課題に関連する分野を幅広く学ぶ。

■ ソーシャルデザインプログラム

「社会問題の発見と解決」に関する理論と実践を体系的に学ぶプログラム。現代社会における社会問題の特性とその多様な解決方法を多角的に学び、フィールドワークを通じて社会問題の現実を学びます。プログラム修了者は、社会問題を主体的に発見・解決し、新たな地平を切り拓く人材として、社会のさまざまな分野で活躍することが期待されます。

■ 社会と連携した専門特殊講義（プロフェッショナルに学ぶ）

学外諸機関からゲストを迎えた専門科目。社会の第一線で活躍しているプロフェッショナルの講義はとてパワフル。学生たちの好奇心・探求心を刺激します。

[開講例（一部）]

- 読売マスコミ講座
～メディアの公共性から新聞・テレビの課題と役割を考える～
- 朝日新聞・朝日放送リレー講座～メディアの現場から～
- 京都市連携講座 京都を深める～市政を知る、学ぶ、考える、創造する～
- 読売スポーツ社会学講座
～スポーツ・メガイイベントをめぐる功罪とスポーツ報道～

英語で社会学を学び、専門の学びと語学力を同時に高める。

■ グローバルスタディプログラム

国内外で起きている社会諸問題について国際的な視点から学ぶことを目指す国際教育履修モデル。多文化共生・異文化理解のための知識と実践力を修得する講義科目とフィールドワーク科目、そして外国語でのコミュニケーション力を涵養する語学科目といった多様な科目を配置しています。また、ゼミナールでの報告や卒業論文において、外国語の文献を用いて研究テーマを深められるようになることを目指します。

[異文化理解フィールドワーク]

- アメリカ西海岸でレジャー・スポーツビジネスの最前線を学ぶ
- 韓国社会の政治・経済・文化を学ぶ
- 台湾の文化と社会
- ポーランドの障害・福祉・教育・平和を探るフィールドワーク
- ベトナムの障害・福祉・環境・平和を探るフィールドワーク研究



※開講するプログラム・渡航先は年度によって異なります。

■ 地域連携プロジェクト（社会の現場で学ぶ）

「問題の本質的な理解を持って、解決に向けた思考力と実践力を養うこと」「多様な他者とのやりとりの中から自分自身を批判的に検証・理解し、総合的な人間力を養うこと」を目指し、地域連携プロジェクトを積極的に展開しています。

[活動例（一部）]

- コミュニティ・エナジー
“小電力発電再稼働を契機とした地域おこしの探求”
- 第三の居場所探究—シェルター／カフェ／中・高居場所づくりに着目して—
～尼崎市・大阪市～



■ 英語副専攻

高度な英語運用能力を身につけながら、社会学関連の専門知識を幅広く英語で学び、発信する力を鍛えるプログラムです。大学院進学や英語圏への留学を希望する学生のニーズに応え、英語でのライティング、リーディング、プレゼンテーションに重点を置いた授業も行います。授業は全て英語で行われ、プログラム修了時には全員がTOEIC®L&Rテスト600点以上、そのうち上位3分の1の学生は730点以上の力をつけることを目指します。

※TOEIC®はEducational Testing Service (ETS) の登録商標です。

■ 海外短期研修プログラム

海外の大学と連携しながら海外短期研修プログラムを実施しています。産業社会学部のカリキュラムの中で培った外国語の総合的運用能力を基礎に、海外というフィールドで各分野の専門学術を深めます。

- Study Abroad Program (オーストラリア・サザンクイーンズランド大学)

高度な専門性を有する資格や、さまざまな教員免許の取得が可能。

■ 資格課程のサポート

産業社会学部では以下の資格や免許を取得することが可能です。また、社会福祉士国家試験受験資格、小学校教諭免許の取得を目指す学生には、専門スタッフと専用の資格支援室を設け、取得をサポートしています。

※所属する専攻や時間割の都合により、複数の資格課程を並行して履修することができない場合があります。

資格
● 社会調査士（定員60名） ※定員を超えて申し込みがあった場合は選考を行います。
● 社会福祉士国家試験受験資格（人間福祉専攻のみ、定員40名） ※社会福祉士資格課程の履修希望者には選考を行います。 ※社会福祉士資格課程の履修には別途社会福祉士課程履修料（※2025年度実績 9万8千円）の納入が必要となります。

教員免許
● 現代社会専攻／メディア社会専攻／スポーツ社会専攻／人間福祉専攻 中学校教諭一種（社会・保健体育）、 高等学校教諭一種（地理歴史・公民・保健体育）、 特別支援学校教諭一種（知的障害者・肢体不自由者・病弱者）
● 子ども社会専攻 小学校教諭一種 ※子ども社会専攻は小学校教諭一種免許を取得のうえ、中学校教諭一種免許（社会・保健体育）・高等学校教諭一種免許（地理歴史・公民・保健体育）・特別支援学校教諭一種免許を取得することができます。

専攻・特色

高い専門性と多角的な視野を養う5専攻

異なる視点から見つめ考えることで、現代社会の複雑で多様な問題の実態が見えてくる。

アクティブ・ラーニング ～社会に触れて学ぶ～

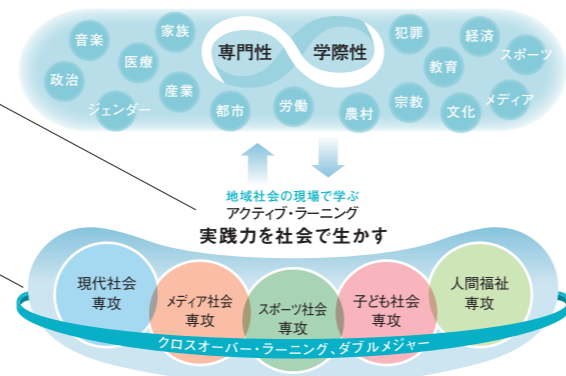
フィールドワークやボランティアなど、実際の社会に触れて、学生自らが主体的・能動的に学ぶアクティブ・ラーニングを重視しています。日本および海外の社会問題の現場で人と接しながら、調査・研究を進めます。

クロスオーバー・ラーニング ～専攻の壁を越えて学ぶ～

学部基礎専門科目や他専攻の専門展開科目などの履修を通して、専攻の壁を越えた多彩なテーマを学ぶことが可能です。例えば、「教育」と「福祉」、「スポーツ」と「ジャーナリズム」など複数のテーマを学ぶことで、複雑な課題を多面的に捉えることができます。

【ダブルメジャー履修制度】

クロスオーバー・ラーニングを実現するための一つの仕組みです。所属する専攻以外からサブメジャー専攻の一つを選び、通常は履修できないサブメジャー専攻のゼミナールや専門導入科目を履修することが可能となり、社会問題へのより深く多面的なアプローチを可能にします。



※他専攻の専門科目の単位認定における科目区分(分野)は、専門科目ではなく「発展科目」です。
※卒業するためには、教養科目・外国語科目の他に、自専攻の専門科目を少なくとも20科目程度単位取得しなければなりません。

現代社会専攻

現代社会の課題に3つの領域から迫り、真に豊かな未来を探究する。



一人ひとりが尊重され、それぞれの個性や能力が活かされる「ダイバーシティ&インクルージョン」の実現や、自然環境と経済活動の調和を目指す「持続可能な社会」の創造といったさまざまな課題に、「社会形成・社会文化・環境社会」の3つの領域からアプローチし、真に豊かな未来を探究します。「社会形成」領域では、政治・経済・労働など社会の構造についての論理を学び、さまざまな場面で社会変革を推進できる力を養います。「社会文化」領域では、人間・文化・社会についての論理的思考を柱として、新しい生活規範を創出する力を育みます。また、「環境社会」領域では、持続的社会的形成を目指し、自然環境の保全のみならず、住みよい社会環境の創造に主体的に関わるための力を培います。いずれの領域でも、文献学習だけでなく、フィールドワークにも積極的に取り組みます。

メディア社会専攻

メディアの機能・役割について学び、社会とのより良い関係を創出する。



メディア社会専攻では、社会とメディアとの「より良い関係づくり」を目指します。新聞や放送などの社会的機能やインターネットに至る発展と歴史、またマンガや広告といった文化など、メディアと社会の関わりについて学び、各種メディアが果たすべき役割や責任について考察します。さらに情報を的確に読み解く力や発信するためのスキルも養います。現代社会におけるメディアの機能を検証する「メディア社会」、メディアと人との関わりに注目する「市民メディア」、映画、マンガといった文化としてのメディアを学ぶ「メディア文化」という3つの領域を設定しています。自分の関心や進路の希望に合わせて、一つあるいは複数の領域から多角的に学ぶことが可能です。

スポーツ社会専攻

心豊かで健康な人間社会のために、スポーツや余暇のあり方を考察する。



余暇の過ごし方や健康管理に対する関心が高まる中、豊かな人間生活の実現のためにスポーツに注目し、活用しようという動きが顕著になっています。スポーツは私たちの生活や社会と密接に結びつき、産業の一分野として飛躍的に成長しています。スポーツ社会専攻では、社会や生活におけるスポーツの役割や、余暇、健康との関わりについて多角的にアプローチしていきます。公的機関や民間企業、ボランティアの立場から文化としてのスポーツや余暇に対する知見を深め、豊かな社会を実現する方法を模索します。基盤となるスポーツ理論の学修に加え、現地調査などを取り入れた実践的な授業を展開しています。海外研修なども活用しながら、社会でスポーツをマネジメントしていく力や余暇の新たな可能性を見出す力を養います。

子ども社会専攻

子どもたちと関わりながら、これからの学校教育について考える。



子ども社会専攻では、子ども・若者について多面的・総合的に学べ、小学校教員養成課程を設置しているため、「小学校教諭一種免許状」を取得することができます。また、条件を満たせば、「中学校教諭一種免許状(社会・保健体育)」「高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民・保健体育)」「特別支援学校教諭免許状」も取得可能です。本専攻では、産業社会学部の特徴を生かし、社会学・心理学・スポーツ学といった領域から子ども・若者や社会課題を多面的に理解・分析したり、メディア・福祉・グローバルな視点から子どもを取り巻く社会環境について学際的に学んだりすることができます。また実際に小学校や子ども食堂などの現場に出向いて、実践的に学ぶ機会を設けています。「少人数での学び」「免許取得に向けたサポートルームの設置と手厚い支援」「経験・知識の豊かな教員による質の高い授業」によって、子ども・若者に関する高い専門性を身に付けた「子ども・若者のスペシャリスト」の育成を目指します。

人間福祉専攻

誰もが尊厳ある地域生活を送れるよう、全ての人の「当たり前の暮らし」を支援する。



障がいの有無や、置かれた環境にかかわらず、また子どもでも高齢者でも、誰もが尊厳を保ち地域での暮らしを営めるようにする社会づくりに貢献します。社会福祉というテーマに対し、「福祉社会」と「人間発達」という2つの領域からアプローチします。政治や社会、経済といったマクロな視点と、生活や発達、悩みや困難といった人間そのものを捉える2つの視点を正しく理解した上で、社会保障・社会福祉の制度に関する理解から、社会的困難のある個人や家族への個別支援の知識、技術まで幅広く学びます。また、高度な専門資格である社会福祉士資格の取得に向けたサポートも行っています。福祉マインドを持って社会のさまざまな場面で活躍できるような学びを深めていきます。

4年間の学び

学問領域を超えて、アクティブに学ぶ

高い専門性を養うため、各専攻独自のカリキュラムのもと、系統的に履修を進めていくことができます。一方で専攻間の壁を低くし、他専攻の科目を学べる柔軟なシステムも用意しています。高い専門性と多角的な視野を養い、4年間の学びの成果として卒業論文を執筆します。



上記は2026年度のカリキュラムです。2027年度は科目の改廃や科目名称等が変更になる場合があります。
 専攻専門科目の履修は、「専門導入科目」→「専門展開科目」を基本としつつ、学修テーマや時間割の条件に合わせて各自で設計することができます。
 学部の専門科目は質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 → [教養科目 P.102](#)

外国語の選択	[必修] 英語 [選択必修] ドイツ語/フランス語/中国語/スペイン語/朝鮮語 から1言語 英語と選択必修の内の1つの言語を合わせた2つの言語が必須。国際社会で通用する高度な外国語運用能力を身に付けることを目標とします。
産業社会学部の英語副専攻	学部の専門性と英語運用能力を同時に高める産業社会学部独自の副専攻を設置しています。 → P.021

■ゼミナール・卒業研究

産業社会学部では、ゼミナールに所属し、その成果物である「卒業論文（もしくはそれに準ずる成果物）」を提出することが卒業の必要条件です（必修科目）。ゼミナールでは、専門的な学びを深めることを通じて得られた多様な知識や技法を深化させることに加え、自ら主体的・能動的に取り組むことを通じて、それらを総合させることを目指します。ゼミナールでの学修成果は、4年間の学びの集大成となる「卒業論文」としてまとめあげます。ゼミナールは産業社会学部での学びを「紡ぎ上げ」「完成させる」場です。

教員紹介

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

現代社会専攻	
江口 友朗	タイなど東南アジア諸国の人々での間での金銭的な違い（例えば、貧困や所得格差など）に関する調査と、世界中の人々が物質的に豊かかつ幸せに暮らしていくために必要な持続可能な社会経済システムの検討：各国の制度や政策をてがかりにして
大野 威	日米英ニュージーランドを中心とした働き方の変遷の国際比較、女性役員登用、育児と仕事の両立
加藤 潤三	社会心理学から地域コミュニティにおける人間の行動と心理の探求（地域環境問題、地方への移住、沖縄に関する研究など）
加藤 雅俊	公共政策が国々によって異なる理由・背景に関して政治的な要因に注目して分析する（特に、日本とオーストラリアに注目して）紛争処理と合意形成のあり方を多角的に検討する 政治学という学問が可能になるための条件を検討する
金澤 悠介	大規模アンケート調査で人々の政治についての新たな価値観を探る、大規模アンケート調査で社会的孤立の実態と原因を探る
斎藤 真緒	ヤングケアラー・若者ケアラーおよび男性ケアラーを中心とする家族ケアに関する理論的実証的研究と当事者参加に基づく社会資源の開発、今日の若者の恋愛の動向の把握とデートDV予防プログラムの開発
崎山 治男	感情の社会学、サービス産業下でのストレスに関する感情労働論、コミュニケーション能力が求められる社会の心理主義という視点からの分析
櫻井 純理	市町村と企業・NPO等が提供している就業困難者への支援政策、日本とデンマークの比較研究
杉本 通百則	リサイクルやサーキュラー・エコノミー（循環経済）の研究、EU・ドイツの環境政策の歴史、大量生産・大量消費社会の国際比較など
住家 正芳	宗教学、宗教社会学、宗教や宗教的なものをめぐるさまざまな思想の研究
孫片田 晶	在日コリアンの歴史や思い、多文化共生社会、人権主義の問題
武岡 暢	食品卸売市場、フードシステム、歌舞伎町の都市社会学、商店街、職業のネットワーク：ホストクラブ、キャバクラ、性風俗、寄引き、スカウト等
富永 京子	政治に対して意見を言うことや批判をすることはなぜ日本社会では嫌がられてしまうのか「旅行」と「DIY (Do-it-Yourself)」を社会運動として研究する
中井 美樹	生活や仕事での男女間不平等の研究、ジェンダー格差・性別役割分業、等の研究
中西 典子	地域社会と公共性（公共空間）、地域政策（地方分権、地域振興）に関する比較社会研究、京都学研究
永島 昂	日本経済・産業の歴史、モノづくりにおける中小企業研究
中野 聡	観光と健康を融合したまちづくり、身近なところからの環境対策（SDGs）、アート活動で地域おこし？、震災復興と国際交流の実践、UberやAirbnbが身近な社会を創るには？、高齢者に優しい社会をみんなで創るにはどうすれば良いか（海外にもトビ出そう）？
永橋 為介	参加型まちづくりの実践、ファシリテーション・スキル（対話と熟議を円滑に進める技法）の獲得と展開、合意形成の作法と技術
樋口 耕一	ネットやマスメディアを飛びかう言葉から「社会の心」を探る研究、テキストマイニングの方法とツールの開発
平井 秀幸	刑務所のフィールドワーク、薬物依存症とその支援、セルフヘルプ・グループと当事者活動、社会批判と社会調査
増淵 あさ子	米軍が人々の生活や生存にどのような影響を与えてきたのか。沖縄占領研究、軍事主義とジェンダー/レイシズム、医療史、冷戦研究
水沢 光	科学技術政策史、航空技術の歴史、科学コミュニケーション
三苫 利幸	マックス・ヴェーバーの思想、近現代の沖縄をめぐる思想
柳原 恵	ジェンダー研究。女性史。インタビューとミニコミ（自主制作雑誌）から見る女性運動
吉田 誠	戦後日本の企業と労働組合の歴史
メディア社会専攻	
飯田 豊	メディア論、メディア技術史、文化社会学。特にテレビ、万博などに関する研究
瓜生 吉則	マンガの読者論・メディア論、メディア文化としての競馬の歴史社会学、戦後日本社会におけるテレビの文化研究
大澤 聡	メディア史、思想史、出版論、読書論
川口 晋一	メディアの発達と観覧スポーツ文化の変容：米国レクリエーションの歴史と政治
近藤 和都	メディア論、メディア史、映像文化論（映画・テレビ・ビデオ・動画配信をめぐる受け手研究）
住田 翔子	戦後日本の廃墟イメージの研究、アートと都市空間・都市イメージ、視覚文化論、感性文化論
高橋 顕也	コミュニケーション・メディア、メディア文化、ソーシャル・メディア、社会理論
谷原 吏	SNSとコミュニケーション、AIのガバナンス、世論と政治、定量的分析
趙 相宇	東アジアのメディア文化とその公共圏、植民地支配に関連する記憶と報道
筒井 淳也	社会的ネットワーク（家族・友人関係）、仕事と家庭の両立、国による生活や価値観の違い
浪田 陽子	メディア・リテラシーの教育実践、メディアに描かれるジェンダーやエスニシティの表象分析、日本の推し活と欧米のファンカルチャーの比較研究
根津 朝彦	戦後日本のジャーナリズムの歴史、新聞記者・報道・ニュース研究、テレビのドキュメンタリーが迫る社会問題
日高 勝之	「物語 (narrative)」としてのメディア・映画研究 記憶、メタスタジアのメディア・映画研究 コロナ禍・東日本大震災などの大災害・カストロ以後のメディア・映画研究
藤嶋 陽子	日本のファッション産業の歴史、ファッションメディア、SNSやECサイト（商品を売買できるウェブサイトの）の登場が消費に与えた影響、ファッションとテクノロジー
スポーツ社会専攻	
市井 吉興	新しいスポーツ＝ニュースポーツを創ってみよう！そして、スポーツの魅力を探索してみよう！！でも、「新しいスポーツ」ってなんだ??
漆原 良	スポーツのパフォーマンスを含む人の運動・行動能力の潜在的可能性を引き出す方法を学際的視点から考える
岡田 桂	スポーツとジェンダー（性別役割）をめぐる歴史と現状、スポーツとセクシュアリティ（LGBTQ+）の関係性、文化としてのスポーツが社会で果たす役割
金山 千広	障害者スポーツの普及・振興に関する研究 学校体育・生涯スポーツにおける「場」のインクルージョン 対象者の状況に応じて、スポーツを工夫・展開するためのマネジメント（アダプテッドスポーツのマネジメント）
金子 史弥	スポーツ社会学、スポーツ政策論 戦後のイギリスにおけるスポーツ政策（スポーツとナショナリズム/社会的包摂）に関する研究 オリンピック・パラリンピックをはじめとした国際的なスポーツイベントに関する社会学的研究（特にその（レガシー）（遺産）に関する研究）

権 学俊	近現代日本の天皇制（皇室）とスポーツの歴史 スポーツとナショナリズムに関する研究 スポーツと人種差別、排外主義に関する研究
中西 純司	スポーツ経営学の理論的研究、スポーツマーケティング研究、スポーツサービソロジーと価値共創の研究、スポーツ組織論研究
松島 剛史	スポーツがなぜ世界に広まったのかを探る ラグビーの魅力や発展がいかに社会（政治、経済、科学技術など）を支えられているかを探求する レジャー・スポーツを使って理想的なコミュニティや社会をデザインする
藪 耕太郎	スポーツを含む身体運動文化史 武道の国内外への普及と受容に関する史的 文化史や社会史の観点に基づくスポーツ像の構築
子ども社会専攻	
石田 智巳	体育と認識、ナラティブ・アプローチ、体育実践記録論
大谷 哲弘	高校生の学校生活への適応やキャリア発達、児童生徒の大規模自然災害後のトラウマ反応
岡本 尚子	算数科の子どものつまづき、脈拍や視線などを用いた思考の分析
御旅屋 達	ひきこもり経験を有するなど、生活や就労において難しさを抱えた若者を支える仕組みについての研究 現代社会における「居場所」についての研究
角田 将士	社会科（地理歴史科・公民科）カリキュラム編成論、社会科（地理歴史科・公民科）授業構成論
景井 充	フランス社会学を醸成させた問題意識と理論構成の解明 日本の近代社会の特質を炭鉱の歴史に探る研究 条件不利地域の社会経済的サステナビリティを実現するソーシャルデザインの探求
柏木 智子	子どもの貧困、外国ルーツの子どもの食生活、学習支援活動、探究学習、ケアする学校・授業づくり、学校とICT活用、学校との連携によるコミュニティづくり
中西 仁	史料批判、質的な調査の手法を用いた社会科授業実践の分析 歴史民俗学的アプローチによる都市祭礼および京都の祭礼の研究
野原 博人	理科教授・学習論、理科評価論、学習環境のデザイン
春木 愛	国語科授業づくり、「子どもの論理」を生かした教育実践理論、幼小接続期教育およびカリキュラム開発
松岡 宏明	造形・図画工作科・美術科教育における目標と評価、美術鑑賞教育、子供と造形
松本 麻友子	アプリケーションを活用したメンタルヘルス促進のための心理教育プログラムの開発と効果検証
人間福祉専攻	
秋葉 武	NPO・NGOの経営学（NPOがより社会的成果を挙げるためのガバナンス・クラウドファンディング・広報・人材開発・コンサルティングなど）
石田 賀奈子	児童福祉・特に虐待を受けた子どもの回復に向けた支援に関する研究、児童養護施設やこころによる子どもの養育、子どもの権利擁護（アドボカシー）
呉 世雄	高齢者の地域生活を支える仕組みと実践、社会福祉施設の運営管理、ビジネス手法を用いた社会問題の解決、新たな福祉サービスの開発
岡田 まり	病氣・障害・介護・貧困・差別などに直面している人の生活支援や環境改善、福祉専門職の養成や研修
川崎 聡大	発達障害や知的障害・言語障害の背景や支援法を心理学・脳科学の観点から検証する ディスレクシア（発達性読み書き障害）の支援法やインクルーシブ教育実践を可能とする評価法の研究
黒田 学	障害のある子どもと家族の地域生活支援、特別ニーズ教育および障害児福祉に関する国際比較研究（ベトナムなどの東南アジア、ポーランドなどのEU諸国）
桜井 啓太	現代日本の貧困問題。社会福祉、特に生活保護制度に関する研究
鏡目 真人	社会保障、労働、家族などに関する社会問題と日本の福祉国家に関する研究、高齢期の貧困問題と年金制度の研究
篠原 郁子	発達心理学。主に、乳幼児期の社会情緒的発達、親子関係、幼児教育・保育と子どもの発達の関連に関する研究
田村 和宏	障害のある子ども・人たちの発達と生活・教育・労働の支援について。障害のある人の権利の侵害と保障について。家族やきょうだい支援について
丹波 史紀	貧困や災害などのリスクにさらされた個人や家族が、尊厳を保ち地域での暮らしを実現する社会政策の研究
中根 成寿	障害政策に関する調査研究 福祉事業所等のデータ分析・DX推進に関する調査研究
長谷川 千春	日本やアメリカを中心とした、医療保険や医療サービスの提供に関する医療保障システムについての研究、また医療保障システムが抱える問題についての研究
前田 信彦	教育と職業キャリアに関する社会学的研究、学校から職業への移行とキャリア教育（大学生の就職活動など）、ワークライフ・バランス研究
松田 亮三	医療と福祉の仕組みと政府の役割、いろいろな国の福祉の仕組みの比較、誰もが必要な医療・福祉を利用するために何をすればよいか
村田 雅弥	インクルーシブな社会に向けた教育のあり方についての研究
言語・国際教育	
Ian Hosack	日本の中等教育におけるシチズンシップ教育（市民教育）と英語教育との関連性とその取り組み。現代社会に市民として参加するため必要な意識、スキル、価値観など、英語教育を通してどのように育成されるかについての研究
上原 徳子	中国古典小説とそのパロディ・スピンオフ・映像化作品と読者や観客の受けとめ方についての研究
下條 正純	日本語における表現とその効果、物語（少女小説やライトノベル）に見られる発話表現と人物描写の関わりなど
武田 淳	留学や就職などで国境をこえて移動する人々についての研究
仲井 邦佳	スペイン語文法構造の研究、ロマンス語（イタリア語、フランス語、等）との比較研究、スペイン語と日本語の対照研究
盧 載玉	韓国・朝鮮語教育（言語の機能「読む」「書く」「話す」「聞く」）を楽しむ学べる教材開発、文化的背景に基づいて機能する言語力を身に付けるための教材開発
松島 綾	視覚レトリック、視覚コミュニケーション理論、ビジュアル・カルチャー研究
宮尾 万理	第二言語学習者による文の理解と産出、思考力の育成
山崎 遼	現代民俗学、スコットランド文学、伝承歌・物語などの口頭伝承研究、ヴァンキュラー文化研究、スコティッシュ・トラベラー研究



詳しくはこちら ▶



[衣笠キャンパス]

国際関係学部



国際関係学科

国際関係学専攻 / グローバル・スタディーズ専攻 英語・4月 英語・9月

アメリカン大学・立命館大学国際連携学科 英語・4月

多文化が融合する環境で成長し、グローバルな視野で国際社会の諸問題に挑む

国際関係学部は、1988年の設立以来、国際協力、外交、グローバルビジネス、地域コミュニティなど国内外で活躍する9,000名以上の卒業生を輩出してきた西日本で最も伝統ある国際系学部です。この間、冷戦の終結、世界的な経済危機、IT革命や環境などに関する諸問題、テロリズムに代表される新しい脅威の台頭、新たな感染症の出現など、国際社会は日々めまぐるしい変化に直面しています。国際関係学部もそれらの変化に対応すべく、進化を遂げてきました。国際関係学部では、国際社会で起こる戦争や貧困、民族間対立などを、政治や経済の分野に留まらず、社会学、文化人類学、歴史学などの観点から多角的に捉えようとする学び

を推進しています。この複眼的な視点は国際関係学部特有の学術的アプローチです。国際社会で起こる出来事はさまざまな要因が複雑に絡み合っており構成されています。国際社会に貢献するためには、物事の表面だけではなく背後に潜む社会のひずみや、一見無関係に思われる別の物事との関連性を浮き彫りにするなど、物事をより客観的かつ本質的に深く理解する力が重要となります。学問分野を越えて物事を考察し、文化・宗教、既存の価値観（常識）を超えて、自分の価値観を再構築する。国際関係学部での学びは、さまざまな局面を自分の力で打開し国内外で活躍したいと望む人がさらに成長するための、重要な一歩につながります。

英語・4月 授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を取得でき、4月入学ができる学科・専攻・コース

英語・9月 授業を英語で行う科目のみで学位取得に必要な単位を取得でき、9月入学ができる学科・専攻・コース

学科紹介

国際関係学科 IR GS

国際問題を解決に導く人材を育てる多彩なプログラムを提供。
日本語基準と英語基準、2つの専攻の科目を幅広く学べるクロス履修制度を採用。

国際関係学 (IR) 専攻とグローバル・スタディーズ (GS) 専攻では、国際社会の理解・課題解決に不可欠な「理論」、「地域」、「言語」を段階的に学びます。多くの科目は、同じ内容の講義を日本語と英語の両言語で開講しています。異なる専攻の科目を卒業に必要な単位数の半数近くまで履修することができる「クロス履修制度」を活用することで、国際関係学科の学生は、関心のある科目を日本語と英語の両方で学ぶことができます。さらに、国際機関の職員や外交官などの国際公務員を目指す学生向けに「国際公務コース」を開講しており、国際公務に関わる専門的な学びだけでなく、将来のキャリアを見据えたサポートも受けられます。

IR 国際関係学専攻

現代の国際社会が抱える問題を探究し
グローバルに活躍できる力を蓄える。

主に日本語で「国際関係学」を学びます。「国際秩序・平和」、「国際協力・開発」、「国際文化・社会」の3つのクラスターで構成される専門科目、世界各地の「地域研究」科目を体系的に学び、国際社会が直面する多様な課題に挑む力を養います。また、「クロス履修制度」により、英語で開講される科目をグローバル・スタディーズ専攻の学生と共に学ぶことができるなど、グローバルな学習環境が整っていることも特長です。海外留学は必須ではありませんが、毎年、多くの学生が半年～1年間の長期留学プログラムに参加しています。卒業生は4年間で身に付けた国際関係への深い知見と行動力、コミュニケーション能力を生かし、世界中のさまざまなフィールドで活躍しています。



GS グローバル・スタディーズ専攻

世界から集う留学生と共に英語で学び
日本と世界との架け橋を目指す。

主に英語で「国際関係学」を学びます。学年の半数以上が海外からの留学生です。日本・京都に居ながらにして海外の大学と同様の環境で4年間を過ごします。世界中の国・地域から学びに来ている留学生と切磋琢磨しながら、高度な英語運用能力を養い、多様な文化や価値観に触れることで真の国際コミュニケーションや文化理解の機会を得ることができます。外国籍の同級生や多様なバックグラウンドを持つ教員との共修を通じて、エキサイティングな大学生活を過ごすことができるでしょう。また、「クロス履修制度」により、日本語で開講される科目を国際関係学専攻の学生と共に学ぶことができるため、関心のあるテーマについては日本語開講の科目を履修することも可能です。



アメリカン大学・立命館大学国際連携学科 (Joint Degree Program) JDP

アメリカン大学・立命館大学国際連携学科は、立命館大学国際関係学部とアメリカン大学 School of International Service が連携して一つの教育課程を編成し、両大学が連名で一つの学位 (学士 (グローバル国際関係学)) を授与する、学士課程レベルとしては日本で初となる学科です。

本学科では、立命館大学とアメリカン大学の双方から学生を受け入れます。両大学の教員による一貫した指導のもと、両大学のキャンパスで2年ずつ学び、日米の異なる視点から国際関係学を学んでいきます。

それぞれの大学の強みや特長を生かした授業科目やインターンシップ等の実習科目が一つのカリキュラムの中で提供されるため、2年間の留学を含む4年間の学びを体系的かつスムーズに進めることが可能なプログラムです。



アメリカン大学 (American University) School of International Service:

1957年創立。国際関係学のスクールとしては全米で最大規模を誇り、約3,000名の学生が在籍。ワシントンD.C.のキャンパスには、世界約130の国・地域から留学生が集う。「Foreign Policy Magazine (2024)」の「The Top International Relations Schools of 2024, Ranked」では、学部で全米8位、大学院 (修士課程) で同8位にランキングされている。

4年間の学び

回生	1回生	2回生	3回生	4回生		
学びの流れ	国際関係学の基礎を「基礎演習」「国際関係学の基礎」で学び、英語・初修外国語(または日本語)を学習します。	専門科目・地域研究科目を受講します。政策決定の場を疑似体験するグローバル・シミュレーション・ゲーミング(GSG)にも参加します。	少人数制の専門演習がスタートし、興味を持つテーマについて研究を進めます。	専門演習での研究を進展させて、4年間の学びの集大成となる卒業論文の作成に取り組みます。		
国際関係学専攻	基礎演習Ⅰ・Ⅱ 英語科目・初修外国語科目 国際関係学の基礎(政治・法) 国際関係学の基礎(協力開発・経済) 国際関係学の基礎(文化・社会) データ分析入門: 数字で見る国際社会 国際連合入門 平和学入門	GSG 国際関係Ⅰ・Ⅱ 国際政治学 国際行政学 日本外交論 憲法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 国際法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 国際開発論	ミクロ経済学 マクロ経済学 国際協力論 地域開発論 国際文化・社会学 ジェンダー論 多文化社会論 比較文化論	専門演習 安全保障論 国際ジャーナリズム論 国際経済学(貿易・投資) 国際経済学(金融) 環境経済論 宗教と国際関係 移民研究	東アジア研究 東南アジア研究 南アジア研究 中東研究 アフリカ研究 ロシア・ユーラシア研究 ヨーロッパ研究 北アメリカ研究	卒業研究 専門演習 途上国政治論 国際政治理論 日本経済論 日本文化・社会論 表象文化論 メディア論 など
グローバルスタディーズ専攻	Introductory SeminarⅠ・Ⅱ Academic SkillsⅠ・Ⅱ・Ⅲ Introduction to International Relations Introduction to the United Nations Introduction to Peace Studies Introduction to Law Introduction to Justice Introduction to Linguistics Introduction to Anthropology	Japan and the World Modern World History Global Simulation Gaming Theories of International Relations Politics for Global Studies Economics for Global Studies Sociology for Global Studies International Law Global Political Economy	Peace and Conflict Studies International Organizations International Human Rights Development Studies Global Environmental Issues International Trade and Investment Global Civil Society and Development Media and Society International Migration	Professional Workshop Japanese Society Japan - United States Relations Foreign Relations of Japan Korean Studies Chinese Studies Southeast Asian Studies Advanced Seminar Graduation Research		
立命館大学国際連携学部	立命館大学(京都)で受講する科目(例) Introductory SeminarⅠ・Ⅱ Academic SkillsⅠ・Ⅱ・Ⅲ Introduction to International Relations Introduction to the United Nations Introduction to Gender Studies Introduction to Peace Studies Economics for Global Studies Macroeconomics Microeconomics	Global Studies Research Theories of International Relations Comparative and Global Governance Cultural Awareness and Communication Race and Ethnicity in the Modern World Security Studies Japanese Culture Advanced Seminar Graduation Research	(アメリカン大学(ワシントンD.C.)で受講する科目(例)) SISU-106 First Year Seminar SISU-206 Introduction to International Relations Research SISU-212 China, Japan and the United States SISU-306 Advanced International Studies Research SISU-312 Governance, Development, and Security in Asia SISU-359 Environment, Conflict, and Peace SISU-368 Differences and Similarities in Conflict Resolution SISU-380 Topics in Global and Comparative Governance SISU-393 International Relations Theory			

海外留学プログラム 海外留学プログラムについて P.105

・上記は2026年度のカリキュラムです。2027年度は科目名称等が変更になる可能性があります。
 ・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 → 教養科目 P.102

外国語の選択 (国際関係学科)	国内入試入学者: [必修] 英語 [選択必修] ドイツ語/フランス語/中国語/スペイン語/朝鮮語から1言語 留学生入試入学者: [必修] 英語と日本語 アラビア語・ロシア語も学べます。
--------------------	--

国際関係学部の特長的な学び

グローバル・シミュレーション・ゲーミング (Global Simulation Gaming)

2回生全員が参加する実践型科目です。受講生各々に国連の事務総長や米大統領、難民支援NGO代表、テレビメディアといった世界の主要人物の役割が与えられ、政策立案、交渉過程、政策行使など、国際政治、国際経済の動きを実体験しながら学修します。最新の国際問題について、各々が異なる立場で発想・思考し、議論を展開する必要があり、与えられた役割の背景や現状を深く理解するとともに、議論する相手に関する知識を深めることで、グローバル社会における多角的な視野と考え方を養います。



英語運用能力・アカデミックスキルの修得

国際関係学専攻では、「国際関係学」の知見を深めるための高度な専門英語運用能力を養います。アカデミックな英語力を修得することによって、「諸問題を多角的に捉え批判的に読み解く力」と、自身の主張について「根拠を示し説得力のある説明ができる力」を養います。グローバル・スタディーズ専攻では英語でリサーチ・スキルを学び、文献レビューを行いながら、研究計画を立て、APAスタイル[®]のレポートや論文を作成できる力を養います。

※学術論文などアカデミックな分野の文章に使われる書式



教員紹介

国際色豊かで、多様な研究を進める教員体制

国際関係学部には、欧米、ラテンアメリカ、東アジア、東南アジア、中東、アフリカといった世界中の地域を専門とする教員、あるいはUNHCRやIMF、世界銀行といった国際機関での勤務経験がある教員などが在籍しています。教員の出身国・地域もアメリカ、イギリス、フランス、ドイツといった欧米だけでなく、中国、韓国、ハンガリーなど、多様性に富んでいます。加えて、実務の現場を知り尽くした客員教授が現場のリアルな感覚を伝え、国際経験豊かな教員から国際関係学を体系的に学び、国際感覚を磨くことができます。

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

教員	研究テーマ
安高 啓朗	批判的国際関係理論、国際政治経済学
足立 研哉	国際政治学、軍縮・軍備管理論
雨河 祐一郎	開発論・環境論、社会開発、農業・環境社会学、東南アジア地域研究(タイ)
五十嵐 優子	社会言語学、World Englishes、言語政策と言語教育
池田 淑子	カルチュラル・スタディーズ、記号学
石川 幸子	紛争・平和と開発、国際開発協力、人間の安全保障、ASEAN
板木 雅彦	国際経済学、国際過剰資本論
岩田 拓夫	国際政治学、アフリカ研究
植松 大輝	開発経済、貧困と格差、持続可能な開発、国際協力
大山 真司	カルチュラル・スタディーズ、メディア研究、文化・クリエイティブ産業研究
越智 萌	国際法学、国際司法、国際制度論
O'MOCHAIN, Robert	ジェンダー、人権、言語と自己存在意義の関係性
金児 真依	国際人権法(無国籍法・難民法)、国籍法、国籍・無国籍研究、強制移住学
川村 仁子	国際関係学、政治学、規範学
北村 理依子	国際法、国際人権法
君島 東彦	憲法学、平和学
金 友子	社会学、在日朝鮮人史研究
KIM, Viktoriya	社会学、移民論・家族社会学・ジェンダー論
KUNTSCHAK, Claudia	異文化間コミュニケーション、言語教育学
KOGA BROWES, Scott P.	メディア論、テレビニュースの映像記号論分析
小林 主茂	グローバル国際関係理論、国際秩序、国際安全保障論、平和構築論、国際開発、国際機関論、ロシア外交政策、EU外交政策
佐古 孝義	外国語教育、批判的思考、教師教育
佐伯 千鶴	文化外交
嶋田 晴行	開発経済、国際関係論、地域研究(南アジア、東南アジア)
白戸 圭一	国際ジャーナリズム論、アフリカ地域研究
末近 浩太	中東・イスラーム地域研究
SMITH, Nathaniel M.	文化人類学、ナショナリズム、文化外交、ジャバスタディーズ、都市学、社会運動
園田 節子	トランスナショナリズム、中国移民
孫 軍悦	日中比較文学、日本近現代文学、翻訳論
田川 昇平	社会学、インドネシア研究、人種エスニシティ論、都市論
DANISMAN, Idris	宗教と国際関係、イスラーム思想、トルコ研究、中東地域研究、多文化共存・共生

TAILLANDIER, Denis	カルチュラル・スタディーズ、日本SF研究
CHEUNG, Yukman	文化・歴史社会学、ナショナリズム、都市論、日本研究、アニメ、香港研究
辻本 登志子	社会学、フィリピン移民労働者研究、ジェンダー
鳥山 純子	ジェンダー論、中東ジェンダー研究、文化人類学
中川 涼司	開発経済論、中国経済論
中戸 祐夫	国際政治経済学、日米経済紛争
中本 真生子	比較文化学、現代アルザス史
西村 智朗	国際法学、国際環境法
林 大祐	環境政策学、国際協力論
福海 さやか	国際関係学、安全保障論
FRENCH, Thomas W.	日本史、日本政治論、日米関係史
星野 郁	国際経済学、EU経済・通貨統合
HO, Thanh Tam	環境研究、開発経済学、持続可能な開発、東南アジア地域研究、政策研究
本名 純	比較政治学、東南アジア研究
奉 鉉京	応用言語学、異文化コミュニケーション、翻訳通訳研究
益田 実	国際関係学、イギリス政治外交史
松坂 裕晃	グローバルヒストリー、人種・エスニシティ研究
松田 正彦	東南アジアにおける農業・農村開発
三井 久美子	日本語教育学、会話分析
南野 泰義	比較政治学、北アイルランド政治史
森岡 真史	経済学、経済理論、思想史
矢根 遥佳	国際経済学
山口 智美	文化人類学、日本研究、ジェンダー論
RAJKAI, Zsombor Tibor	社会文化研究、非西欧文化圏の近代化研究、家族研究
芦 兜雪	開発経済学、国際金融、アジア経済論、東南アジア地域研究
渡辺 宏彰	比較政治経済、経済政策、地域統合、国際関係理論
渡邊 松男	地域統合、経済開発、ODA国際協力、持続可能な開発、アフリカ、ボスニア、平和構築
王 通	応用ミクロ経済学、応用計量経済学、公共経済学
客員教授	
相星 孝一	前駐韓国日本大使

PICK UP!

数字で見る国際関係学部

国際関係学部が誇る特色をデータで紹介します。





[衣笠キャンパス]

文学部



■ 人文学科

人間研究学域 / 日本文学研究学域 / 日本史研究学域 / 東アジア研究学域 / 国際文化学域 / 地域研究学域 / 国際コミュニケーション学域 / 言語コミュニケーション学域

幅広い領域の学問を融合して、現代社会にふさわしい人文学を創り上げる

文学部 (College of Letters) は、文字 (letters) によって表現される人間の精神や人間が生み出した文化を「文 (もん) ずる」(研究する) 学部です。哲学・文学・歴史学・地理学・言語学・芸術学など幅広い専門領域から構成される「人文学」(Humanities) の重要性は日に日に増しています。なぜなら、人文学は人間の生き方を考えるための基盤となる学問だからです。複雑で変化の激しい現代社会を生きるためには、一人一人が「善悪」や「人間にとって価値あるもの」についてしっかりと考えなければなりません。数千年にわたる人智の積み重ねによって構築されてきた指針を、現代社会の問題解決に向けていかに活用するか。研究に関連した分野を広範囲に学び、融合しながら、新しい学問を創り上げることが課題となります。

立命館大学文学部では、関連しあう複数の専攻を束ねた「学域」を設定し、学問の境界を越えて学べる仕組みをいち早く整えること

で、時代が求める人文学に対応してきました。

さらに、幅広い人文学の専門的素養を生かして堅固なグローバル感覚を養い、国境を越えて世界に学んでいく「地球市民」の育成力を入れています。地球市民とは、単に外国語の運用能力が高いだけでなく、さまざまな歴史や文化など、それぞれ異なったバックグラウンドを持つ人や地域、国を理解し、尊重できる人のことです。その実現に向け、マレーシア・イタリアなどでの短期留学プログラムも開設しています。

立命館大学には、全国・世界から個性豊かな学生が集まっています。また、教員と学生が近い距離で学べる少人数教育システムも特長です。グローバルな視点と専門的素養や教養を修得しながら、「人間と文化」について学ぶのにふさわしい京都で、人文学を探求してください。

文学部の特長的な学び

文学部の海外留学プログラムで世界の学びを体験する (海外エリアスタディコース)

文学部の幅広い専門分野を生かした「海外エリアスタディコース」は、世界の特定の地域についての理解を目指し、講義受講、実習、フィールドワークや現地大学生との交流にも参加できる履修プログラムです。また、その学びをさらに充実させることができる韓国、中国、マレーシア、イタリアなどへの海外留学・実習のプログラムも設置しています。京都や日本国内の学びに留まらず、国境を越え多様な地域の人々や文化に触れ、文学部の学びをより深化させることができます。



[文学部独自の海外留学プログラム一覧]

プログラム名	国もしくは地域 (機関)	実施時期	派遣期間
東アジア現地実習Ⅰ (韓国)	韓国 (ソウル、釜山)	夏期休暇期間中	約1週間
東アジア現地実習Ⅰ (中国語圏)	中国 (深圳、広州、香港または桂林)	春期休暇期間中	約1週間
海外エリアスタディ実習 (マレーシア)	マレーシア	夏期休暇期間中	約10日間
海外エリアスタディ実習 (パリ)	インドネシア	夏期休暇期間中	約10日間
東アジア現地実習Ⅱ (韓国)	韓国 (高麗大学校)	夏期休暇期間中	約2週間
東アジア現地実習Ⅱ (中国語圏)	中国 (桂林、程陽、北京または上海)	夏期休暇期間中	約4週間
海外エリアスタディ実習 (イタリア)	イタリア (トリノ大学)	春期休暇期間中	約4週間
海外エリアスタディ実習 (オーストラリア)	オーストラリア (サザンクイーンズランド大学)	春期休暇期間中	約4週間
人文学特別研修 (マレーシア)	マレーシア・ペナン (Penang Heritage Trust)	春期休暇期間中	約4週間
日本語教育研修※1	韓国 (祥明大学校)	夏期休暇期間中	約6日間
考古学実習Ⅲ※2	韓国 (韓国伝統文化大学校)	夏期休暇期間中	約10日間
延世大学校グローバル創意融合大学国語国文学科との学生交流プログラム	韓国 (延世大学校・未来キャンパス)	春学期もしくは秋学期 (あるいは両方)	1学期間 もしくは1年間
ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム	アメリカ合衆国 (バレンシア大学)	春学期もしくは秋学期	1学期間

※過去の実績であり、派遣先国・地域を含むプログラム内容や実施時期、派遣期間等が変更になる場合があります。
※1 言語学・日本語教育専攻の学生のみ参加可能 ※2 考古学・文化遺産専攻の学生のみ参加可能

資格課程

(教職課程に加え学芸員や図書館司書の資格課程も)

中学・高等学校教員の教職課程の他、博物館や美術館で働くための学芸員資格課程や、図書館で働くための図書館司書課程の履修と資格取得が可能です。



学芸員課程科目の授業風景



平井嘉一郎記念図書館 レファレンスカウンター

[主な資格課程一覧]

教員免許(※1)	文学部では、中学校の国語・英語・社会、高等学校の国語・英語・地理歴史・公民の教員免許状を取得するための教職課程を履修することができます。
学芸員(※2)	日本史研究学域の考古学・文化遺産専攻では、専門科目の中に学芸員課程科目が含まれており、専攻での専門分野と学芸員課程を並行して学ぶことができます。
図書館司書(※3)	日本文学研究学域の日本語情報学専攻では、専門科目の中に図書館司書課程科目が含まれており、専攻での専門分野と図書館司書課程を並行して学ぶことができます。

(※1) 英語については、英米文学専攻および国際コミュニケーション学域の2専攻以外に所属する学生は選考による事前許可制です。
(※2) 文学部のいずれの専攻でも履修することができます。
(※3) 日本語情報学専攻以外に所属する学生は選考による事前許可制です。

大学院進学プログラム

(大学院進学を視野に入れた教育プログラム)

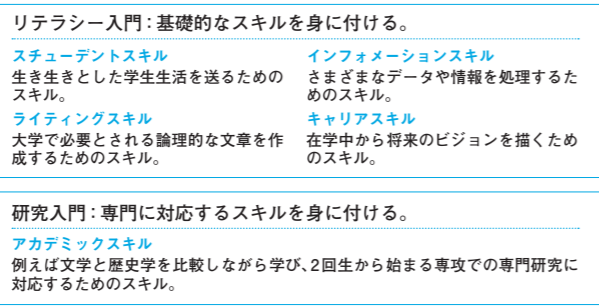
学部在籍中に大学院進学を希望する学生を対象に、大学院 (文学研究科) の授業を一部受講できるプログラムを用意しています。3年生時にプログラムへの出願を行い、選考に合格すれば4年生から大学院科目を受講できます (成績要件有)。その後大学院 (文学研究科) に進学した場合、4年生時に修得した大学院科目の単位は、大学院進学後に大学院で必要な単位として単位認定されます。大学院進学プログラムで早期に大学院の単位を修得することにより、最短1年間で前期課程を修了 (修士学位取得) することも可能です。

文学部の特長的な学び

充実した初年次教育

(大学での専門の学びに必要な5つのスキルを総合的に身に付ける)

大学の専門的な学びにスムーズに移行できるよう、人文学を学ぶために欠かせない基礎的な5つのスキルを身に付ける「リテラシー入門」と、専門の学びに備える「研究入門」という少人数授業を開講しています。これらを連動させることで、専攻の学びを進めるために必要な知見を総合的に高めていきます。



外国語を学ぶ

(外国語の履修を通じて、専門分野の学びを深化させる)

文学部では外国語習得を重視しています。外国語を通して多様な地域の文化や考え方を学び、グローバルな世界を生きるのにふさわしい価値観の涵養が重要だと考えているからです。そのため、外国語運用能力の向上だけでなく、異文化を理解し国際的な視野を醸成することも目指しています。文学部では、外国語科目として英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語から2カ国語を履修することが必要です(選択できる言語は学域紹介ページで確認してください)。また、外国語を発展的に学ぶことができる専門科目も履修できます。

横断的に学ぶ

フィールドワーク型実習やインターンシップを通じて、京都の歴史・地理・文学などを複合的に学ぶ「京都学コース」、人文学の多様な分野を持つテーマや素材、資源に対して、デジタル技術を活用・応用し人文学を探究する「デジタル人文学コース」、人文学系の題材を教材に、高度な英語運用能力を身に付けると同時に、欧米圏の大学院へ進学できるレベルのリーディング、ライティングを学ぶ「英語・アドヴァンストコース」があります。なお、国際コミュニケーション学域の学生は、類似の科目を学域・専攻の専門科目として履修するため、「英語・アドヴァンストコース」への応募はできません。

京都学コース科目一覧

科目区分	科目名
講義	京都学入門(人文学の融合)
	京都学概論(人文学と地域社会)
	京都文化論I(京都と歴史)
	京都文化論II(京都と日本文学)
	京都まちづくり史
演習	京都の美術
	京都学フィールドワークI
	京都伝統工芸研究
	京都学リジョナルスタディ
	京都学研究法
演習	京都学フィールドワークII
	京都学フィールドリサーチ
	京都学演習

デジタル人文学コース科目一覧

科目区分	科目名
講義	デジタル人文学入門
	デジタル人文学概論
	人文学のための情報処理
	図書館情報技術論
	図書館情報資源概論
演習	情報倫理と著作権
	デジタル人文学探究
	コンピュータグラフィックス演習
	テキスト情報処理演習
	空間情報処理演習
演習	デジタルアーカイブ演習
	プログラミング演習
	データベース演習

英語・アドヴァンストコース科目一覧

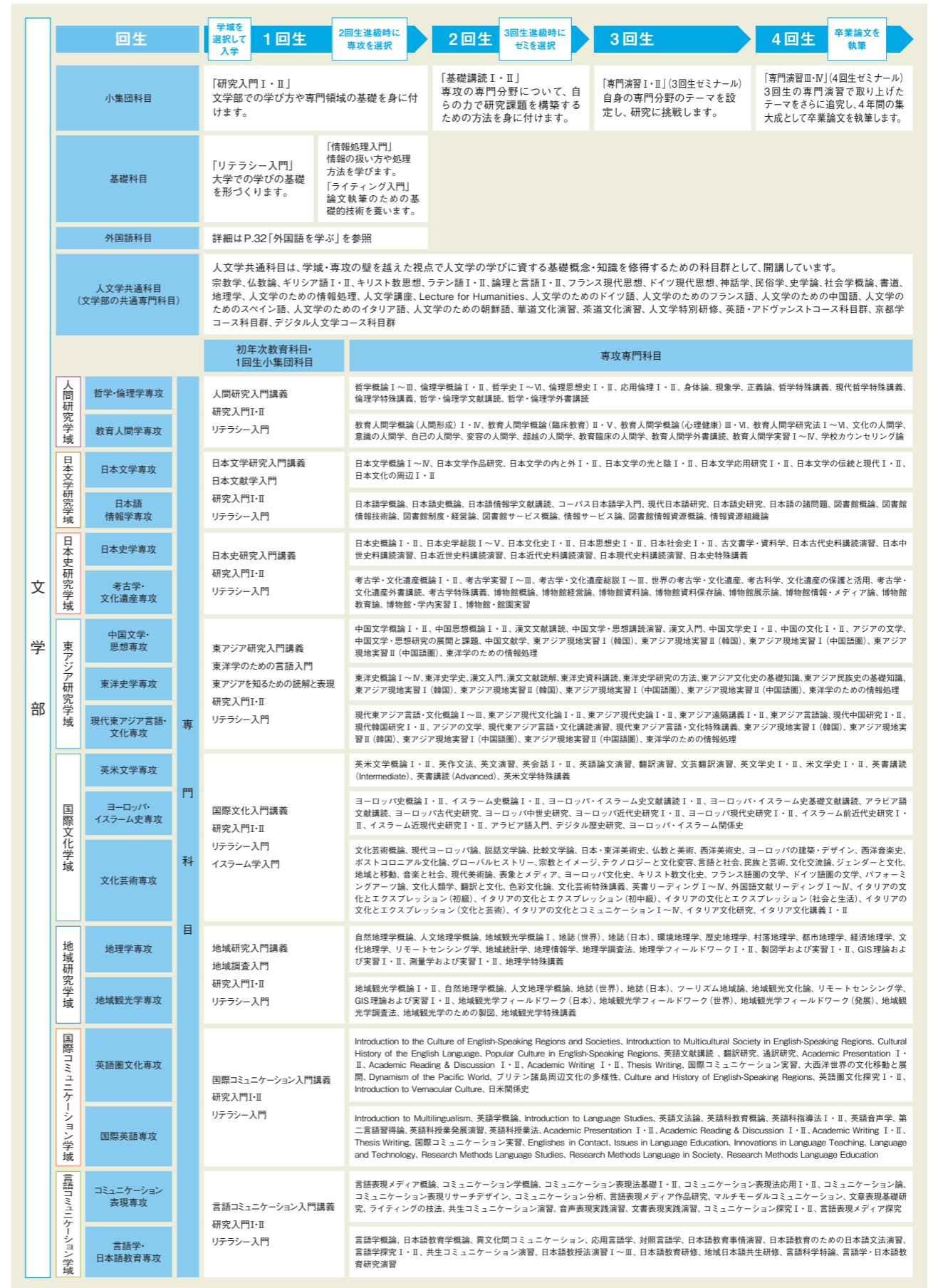
科目区分	科目名
演習	Academic Writing & Presentation I
	Academic Writing & Presentation II
	English Reading & Discussion I
	English Reading & Discussion II
	Academic Listening and Study Skills I
	Academic Listening and Study Skills II

卒業論文

(体系的に人文学の学びを積み重ね、集大成として卒業論文に取り組む)

文学部では、卒業論文が必修科目となっています。進級とともに専門性を高め、研究の具体的手法を身に付けながら、自身の設定した研究テーマについて、専攻の担当教員の指導のもと「卒業論文」に取り組めます。体系的な学びとして、知識・情報処理能力・論理的思考力・判断力・表現力を鍛え、総合的に駆使できる能力を養います。なお、国際コミュニケーション学域は英語で卒業論文を執筆します。

4年間の学び



・上表は2026年度以降入学生のカリキュラムです。科目名称等が変更になる可能性があります。

・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 → 教養科目 [P.102](#)

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

学域・専攻

人間研究学域

人間を根源的に見つめ直し、人間であることに関わる知の可能性を切り拓く。

哲学・倫理学専攻

人間の根源的な問題に立ち返ってよりよく生きるための指標を見つける。



哲学・倫理学は、2600年もの歴史をもつ最古の学問です。哲学・倫理学を学ぶことは、思索の歴史をたどることであり、知の集積を自らの思考の糧とすることなのです。今、社会情勢は驚くほどのスピードと多面性をもって激しく変化しています。既存の価値観が大きく揺らぎ、新時代にふさわしい考え方が求められています。こんな時代だからこそ、「人間とは何か、どう生きるべきか、世界とは何か」という根源的な問いかけが大切です。哲学・倫理学専攻では、すべての学問の基礎となり、人生の指標を得ることにつながる哲学・現代思想と倫理学・応用倫理学を系統的に学びます。

教育人間学専攻

人間・教育・心の3領域を連動させて現代社会が抱える問題にアプローチする。



教育人間学専攻では、人間形成と教育に関わるさまざまな事象を多面的に探究していく中で、人間のあり方を総合的に考えます。心身の関係、健康、意識の深み、生と死、生きる意味、自己実現といった現代社会が抱える人間の問題に迫り、解決に導く学問です。授業には実習形式をふんだんに取り入れ、体験や実践を重視しながら、人間の内面や人間関係、社会に対する理解と洞察力を高めていきます。教育と人間に関わる総合的な研究活動を通して、人間であること、教えることと学ぶことを根底から支える「生きた知」の修得を目指します。

[外国語の選択]

外国語科目		英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
人間研究学域	哲学・倫理学専攻	◎/○	◎/○	◎/○	○	○	○	○
	教育人間学専攻							

第1外国語：◎ 第2外国語：○

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

嶋野 祐介	伝承児童文学(子守唄・わらべうた・民間説話などの教育人類学的研究)
大西 琢朗	論理学・論理哲学
加國 尚志	メルロ＝ポンティ存在論における文学の位置づけ
加納 友子	高等教育におけるコンテンプラティブ教育
亀井 大輔	現代フランス哲学、とくにデリダ思想についての研究
川那部 隆司	日常経験から獲得される知識の解明とその教育への応用
鈴木 崇志	現象学的他者論
辻 敦子	教育人間学の物語論的展開に対する生成論的観点からの批判的検討

永守 伸年	近世ヨーロッパの倫理想史ならびに現代の社会哲学
西村 拓生	「美的なもの」の人間形成的意義に関する思想史的研究
林 芳紀	現代社会の諸問題に対する倫理学的研究
福原 浩之	青年期の心の教育の理論的・実践的研究
布山 美慕	文章や物語の理解および主観的体験の認知科学研究
細尾 萌子	フランスと日本における思考力・判断力・表現力の指導と評価
山内 清郎	子どもの世界(成長・発達・不安・危機など)の人間学的・臨床教育学的研究

卒業論文のテーマなど、より詳しい情報はこちら



日本文学研究学域

日本語学・日本文学・図書館情報学の新たな意義を探究する。

日本文学専攻

日本文学の故郷・京都で多様な研究成果に触れながら作品に新しい光を当てる。



日本文学の研究対象は、日本固有の文献や文化現象です。古事記、万葉集、源氏物語などから近世、近現代にまで至る多様な日本文学を総合的に学びます。今日までの学問的蓄積を踏まえ、さまざまな角度から切り込む最新の手法により、作品の理解と批評に新たな光を当てます。多くの文学作品が生まれた京都の地の利を活かし、先人の研究成果を論文や資料で確認しながら研究に取り組み、絵画や演劇、映像分野の研究、外国文学の比較研究といった新たな研究にも挑戦できます。

[外国語の選択]

外国語科目		英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
日本文学研究学域	日本文学専攻	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○
	日本語情報学専攻							

第1外国語：◎ 第2外国語：○

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

有田 節子	推論過程を明示する言語形式に関する理論的実証的研究
小椋 秀樹	コーパスを活用した日本語の語彙、表記に関する研究
岡崎 友子	コーパスを利用した日本語文法の歴史的用法・変化に関する研究
景井 詳雅	『万葉集』の研究
川崎 佐知子	『源氏物語』などの平安王朝物語文学の文献学的研究・注釈書研究
久野 和子	図書館の社会的・文化的機能についての研究

田口 道昭	「明星」派文学の研究(日本の近代文学・近代短歌の研究)
辻 高明	図書館情報環境と人
内藤 直直	日本近代文学、文学とナショナリズム、近代文学論争の研究
中本 大	「京都」イメージの歴史の変遷と現在、本邦中世の禅林文学、中世近世の漢文学
福美 智章	アニメを「読む」、日本近現代文学研究

卒業論文のテーマなど、より詳しい情報はこちら



日本史研究学域

日本史から政治・社会・文化を解明、新しい時代を切り拓く。

日本史学専攻

日本の歴史をあらゆる角度から読み解き現代、そして未来の本質を探究する。



積み重なった歴史がいかに現代へとつながり、これからどんな時代を創っていくのか、その本質を探究することが日本史学の醍醐味です。世界遺産クラスの社寺をはじめ多様な歴史的資産が点在する京都で、日本史を学ぶための研究技術や方法論、歴史観を学修します。充実した歴史的文献を活用しながら、国際的な歴史学、民俗学や美術史など周辺諸学の動向にも目を配り、日本の歴史を政治・社会・文化・対外関係など幅広い領域から学修・研究します。必要に応じて絵画史料、もの史料、聞き取りなども有効に活用して、幅広い視野から日本史を見つめる目を養います。

考古学・文化遺産専攻

人類共通の財産である遺跡・遺物を次代に継承し有効活用する方法を学ぶ。



遺跡や遺物の研究を通じ、社会や文化の成り立ちを解明していく学問です。文字や言葉では探り切れない時代や社会の側面に触れることで、幅広い視野を身につけます。日本列島だけではなく周辺地域や世界にも目を向け、日本に対する客観的・多面的な理解を目指しています。また、遺跡・遺物の文化遺産としての価値を社会に還元するための保存と活用に関する学修も行います。実践的な調査方法や自然科学的研究を実習するとともに、学芸員課程の授業とも関連したカリキュラムで将来につながる能力を養います。古都、京都で学ぶことも大きな魅力です。

[外国語の選択]

外国語科目	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
日本史研究学域	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○

第1外国語：◎ 第2外国語：○

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

大田 社一郎	日本中世史・日本宗教史	辻 浩和	日本中世の芸能と身分・集団・女性、文化的ネットワーク
岡寺 良	日本城郭史・日本の山岳信仰の歴史	中村 豊	旧石器・縄文時代史
小関 素明	近代日本の主権論、立憲制、官僚制、政党政治	長友 朋子	弥生・古墳時代の器物生産の研究
田中 聡	地域資料をもとにした京都像の変容と住民の歴史意識	東島 誠	(つながり)の精神史、南北朝・戦国等、変革期の歴史・思想
谷 徹也	近世的領主・領民関係の構築過程	水口 幹記	日本古代史、〈術数文化〉研究、漢籍受容史、東アジア文化史

卒業論文のテーマなど、より詳しい情報はこちら



東アジア研究学域

ダイナミックに発展するアジア、その新時代を担う人材を育てる。

中国文学・思想専攻

文学・思想から豊かな知識を学びアジアと世界の未来を展望する。



中国で生まれた漢字は東洋の文化圏形成の核となり、中国の文化は東アジア地域全体の基盤となってきました。これからのアジアを考えるには、その豊かな文学・思想を学び、現在を見据えることが欠かせません。中国文学・思想専攻では、大学所蔵の膨大な文献を活かしながら、時代やジャンルごとのエキスパートが研究を導きます。文学と思想に息づく人間の心の本質を学び、世界で活躍するアジア発の国際人を目指します。

東洋史学専攻

歴史・文化を読み解くことを通してアジアの未来について考える。



近年、中国をはじめとするアジア諸国は急速な経済発展を遂げ、文化面でもその存在感を増しつつあります。東洋史学専攻では、アジア社会の歴史・文化を読み解き、時代や地域を視野に入れながら、その構造を理解することを目指します。アジアの経済発展や政治的紛争の要因を解明するカギもそこにあります。東アジア史の核となる中国の歴史研究は、日本の歴史を問うことにもつながります。アジアと日本の明日を考える学問です。

現代東アジア言語・文化専攻

中国・朝鮮半島の「今」を学ぶことで新時代を担う国際人として成長する。



東アジアの人々は、革命・戦争・植民地を経験する一方で、相互の交流を通じて、その苦しみや分断を克服し平和と共同を希求してきました。今日においても解決できていない問題はありますが、他方、こうした経験や交流は、多様な文化を生み出し多彩な魅力を創出しています。本専攻では、実践的な言語の習得と、海外実習などを通じて、中国・台湾・香港・朝鮮半島や日本、さらには世界各地に暮らす東アジアに出自を持つ人びとの多様な営みや想いに寄り添うことを目指します。

[外国語の選択]

外国語科目	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
東アジア研究学域	○	○	○	◎/○	○	◎/○	○

第1外国語：◎ 第2外国語：○

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

庵道 由香	朝鮮近代史・日韓関係・日朝関係	佐々 充昭	朝鮮近代史と現代韓国文化論
石井 真美子	古代兵書の思想・文献的研究、銀雀山漢簡研究	鷹取 祐司	出土文字資料を用いた秦漢時代の法律・制度の研究
井上 充幸	中国近世文化史・社会史	松本 保宣	唐王朝を中心とする中国中世史
上野 隆三	中国・香港・台湾映画と中国古典小説	三須 祐介	近現代中国演劇史・中国語圏の文学
尾崎 順一郎	中国近世の学術と思想	宮内 肇	近現代中国の地域社会史
金津 日出美	近代東アジア文化交流・東アジア文化論・日本近代史		

卒業論文のテーマなど、より詳しい情報はこちら



国際文化学域

多様な歴史・文化と向き合い、グローバルな課題解決能力を養う。

英米文学専攻

英語圏の文学・文化研究を通して社会と人間への考察を深める。



英米を中心とする英語圏の文学作品研究を通して、英語表現の特性、作品の文化的・歴史的背景、人間と社会の関係のあり方について考えます。さらに言語的感性を高め、異文化への理解を深めます。また、「英会話」「英作文法」「英文演習」「翻訳演習」などの演習系科目やネイティブの教員による科目を通して「読む・書く・聞く・話す」能力とともに、高度な表現力と論理的思考力、高度なコミュニケーション能力を養成します。

ヨーロッパ・イスラーム史専攻

ヨーロッパとイスラームの歴史からグローバル化社会の未来を構想する。



交流や対立を繰り返してきた二つの文明を視野に入れることで、現代世界の成り立ちや構造を歴史的視点から幅広く考察し、過去と現在の対比から人間社会の多様性や可能性を探索します。また自分の問題意識をもとに時代や地域を越えた広範なフィールドを研究するためのアプローチを考えていきます。歴史的視野を広げることで、混沌とする現代のグローバル化社会にも敏感に対応できる力を養い、異文化への深い洞察力和豊かな創造力を培います。

文化芸術専攻

世界中のさまざまな文化に多角的な視点でアプローチする。



さまざまな言語で展開される物語や宗教、信仰、ファッション、音楽、絵画、建築、マンガなど、多岐にわたる文化が対象です。文化人類学、芸術学、社会学、歴史学、言語学、文学など従来の学問の枠組みを越えた横断的な視点で世界が抱える多様な問題にアプローチします。世界と向き合うために必要な経験や、従来の研究方法ではたどり着けなかった新しい発見といった、かけがえのない可能性との出会いが待っています。

[外国語の選択]

外国語科目		英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
国際文化学域	英米文学専攻							
	ヨーロッパ・イスラーム史専攻	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○	○/○
	文化芸術専攻							

第1外国語：○ 第2外国語：○

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

上田 高弘	モダン・アートの批評的研究と批評実践
小澤 一郎	近現代西アジアの軍事史・交易史
金山 亮太	ヴィクトリア朝を中心としたイギリス小説と演劇
唐澤 靖彦	軍事史、特に近代要塞築城史
國司 航佑	ヨーロッパ(特にイタリア)の思想と文学
小寺 未知留	戦後アメリカの音楽理論史およびサウンド・アートの研究
小林 功	6-10世紀のビザンツ帝国と地中海世界
崎山 政毅	ラテンアメリカの近現代の思想形成と文化受容
杉村 篤志	19世紀を中心とするアメリカ小説と大衆文化
須藤 直人	太平洋諸島の比較文学・文化
竹村 はるみ	近代初期イギリスの文学・文化

千川 哲生	フランス文学、特に17世紀のフランス演劇
長澤 麻子	ドイツ現代思想
中村 仁美	20世紀前半のアイルランド文学
NATHANIEL H PRESTON	Cross-cultural Encounters in Literature
西林 孝浩	東洋美術における地域性と普遍性
能勢 和宏	フランス近現代史、欧州統合史
馬場 多聞	中世西アジア・インド洋海域史
宮本 直美	ドイツ市民社会と音楽、文化政策論、宝塚歌劇研究
森永 貴子	帝政ロシアのユーラシア商業およびロシア・アメリカ会社史

卒業論文のテーマなど、より詳しい情報はこちら



地域研究学域

空間を生きる人間の営為(人文現象)を「地域」のなかで探究し、グローバル化する現代の諸問題に取り組む。

地理学専攻

地表上の現象を空間(地域・場所・景観)の視点から解き明かす。



地表上で起こるさまざまな現象を空間的な観点から明らかにすることが目標です。自然現象はもちろん、経済や文化といった人間の営みを研究対象として、多様な手法(調査・分析)を用いてアプローチします。災害や環境問題など、地域の自然と生活とが密接にかかわる現代的な諸課題についても、フィールドワーク(現地調査)のみならず、世界でもトップクラスの研究環境を誇るGIS(地理情報システム)を活用して、積極的に取り組んでいます。

地域観光学専攻

複雑な現象である観光を地域に注目して多角的な視座から読み解く。



観光とは、グローバルな現代社会の特徴を濃厚に映し出している現象です。地域観光学専攻では、さまざまな移動が関わり合うなかで織り成される、複雑で重層的な観光の姿を、地域に注目して読み解いていきます。文化・社会・歴史・経済などあらゆる側面に目配せしながら、フィールドワーク・質問紙調査法といった多様な調査手法を用い、世界・国・都市・集落などのいろいろな空間スケールから観光現象について考察します。

[外国語の選択]

外国語科目		英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
地域研究学域	地理学専攻	○	○	○	○	○	○	○
	地域観光学専攻							

第1外国語：○ 第2外国語：○

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

遠藤 英樹	ツーリズムから見てくる社会・文化のあり方
小野 真由美	生きることをめぐるツーリズム・モビリティーズに関する文化人類学的研究
加藤 政洋	都市文化研究
河角 直美	歴史GISを活用した近代京都研究、環境史・災害史研究
河原 典史	近代の植民地朝鮮・台湾とカナダに関する歴史地理学研究
神田 孝治	観光地の形成に関する文化地理学的研究
古賀 慎二	都市の内部構造に関する地理学的研究

寺床 幸雄	農山村における産業・生活と社会関係に関する研究
花岡 和聖	ビッグデータを用いた地理空間分析
松永 光平	自然と人間との関わりの変容に関する地理学的研究
村中 亮亮	持続可能な社会のための防災と環境保全に関する地理学的研究
矢野 桂司	地理情報システム(GIS)を活用した地理学的研究
山本 理佳	文化資源化と地域社会に関する地理学的研究

卒業論文のテーマなど、より詳しい情報はこちら



国際コミュニケーション学域

英語圏文化の知識と高い英語運用能力を使い、国際社会で活躍する人を育成する。

英語圏文化専攻

英語圏の文化、社会、歴史について学び、グローバルな幅広い視野を身につける。



北アメリカやイギリス諸島、オセアニア地域やカリブ海、南アメリカといった英語圏地域の文化・社会・歴史について学び、研究します。英語圏地域はグローバル化推進の重要な拠点の一つとして機能するなど、政治や経済において重要な役割を果たし、文化は現代の国際社会に大きな影響を及ぼしています。英語圏の動きは世界の動きと密接な関係を持っており、そうした動きを多面的・重層的に学ぶことで、将来、世界市民として活躍する上で不可欠な、広い視野を身につけます。文化の研究は人間洞察を深めます。また学術英語(EAP)科目や英語で提供される専門科目、留学プログラムを通じて、英語の運用能力を高めます。4年間の最後には、大学のまなびの集大成として、英語で卒業論文を書くことも特徴です。

[外国語の選択]

外国語科目		英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
国際コミュニケーション学域	英語圏文化専攻	◎	○	○	○	○	○	○
	国際英語専攻							

第1外国語：◎ 第2外国語：○

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

石川 まりあ	19世紀アメリカ文学・文化研究、文学ジャンルと知の限界 (the unknowable) の表象
江口 朗子	日本の英語学習者における外国語習得モデルの構築
岡本 広毅	中世イングランドの言語と文学、英語の歴史とナショナル・アイデンティティ
小川 真和子	アメリカとハワイ、日本の関係を歴史的に理解する
久屋 愛実	ことばの変異と変化に関する実証的研究
薩摩 真介	海の歴史を中心とする近世・近代イギリス史、および大西洋世界、とくに英語圏カリブ海地域の歴史
佐野 愛子	バイリテラシーの発達に資する教育

占 イン	学習者の主体性と読み書きに基づく多言語習得
杉村 美奈	複雑述語形成メカニズムの解明
根本 浩行	社会言語学、社会文化的アプローチによる第二言語習得研究
MICHAEL JAMES DAVIES	Vocabulary Acquisition
MATTHEW THOMAS APPLE	第二言語習得における個人差 (性格・スピーキング不安・動機づけ・学習方略など) についての研究
水島 新太郎	ジェンダー・男性学・インターセクショナルリティに関する比較文化研究
山本 めゆ	グローバル・サウスと〈サウス〉の変遷に関する研究

卒業論文のテーマなど、より詳しい情報はこちら



言語コミュニケーション学域

“ことば”と“コミュニケーション”にかかわる多様な問いを探究し、実践する。

コミュニケーション表現専攻

“ことば”が人と人をつなぐコミュニケーション場面から文章・音声表現までを研究・実践する。



コミュニケーションの理論や方法を学びながら、多様な“ことば”の表現の研究・実践を目指します。教育の柱は二つ。日常的な場面からプレゼン・面接・接客・診療・演劇・スポーツまで、多様なコミュニケーションの分析と実践を学ぶ「コミュニケーション研究・実践」と、新しいメディア環境における文芸 (小説・戯曲・歌・話芸)、放送 (アナウンス・朗読)、広告など表現の分析と実践を学ぶ「言語表現メディア研究・実践」です。こうした学びから、自己と他者との関係性を再発見し、グローバル社会や変化するメディア環境に対応できる次世代型コミュニケーション能力を養います。

[外国語の選択]

外国語科目		英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
言語コミュニケーション学域	コミュニケーション表現専攻	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○	◎/○
	言語学・日本語教育専攻							

第1外国語：◎ 第2外国語：○

[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

岡本 雅史	言語・非言語コミュニケーション研究、認知言語学と語用論
北出 慶子	多言語・多文化社会のコミュニケーションと言語教育
小林 明子	第二言語としての日本語の習得と心理
佐々木 冠	日本語方言の文法記述と理論的含意の追求
城 綾実	会話分析、身体性、同期現象、相互理解のメカニズム
須川 渡	演劇学、パフォーマンス研究
滝沢 直宏	現代英語の周縁的現象および慣習的側面の研究

言語学・日本語教育専攻

“ことば”のもつ働きや仕組みを学び、さらに、実践を通じて異文化間コミュニケーション能力を養う。



本専攻の教育・研究は二つの柱から成ります。一つは、ことばによる思考や、ことばによるコミュニケーションを探究する「言語学」です。もう一つは、日本語を外国語として学ぶ人たちへの言語教育を、多様な言語文化背景を踏まえて実践する「日本語教育・異文化間コミュニケーション」です。言語学と日本語教育を結びつけることで、言語、価値観、文化や習慣などの違いを客観的に理解します。多様性を認め合い、新たな価値観を生み出し、協力してグローバル社会の課題を解決する力を身につけます。

田中 省作	計算言語学、大規模用例集 (コーパス) 等を用いた言語教育・学習支援
DAVID COULSON	第二言語暗示能力の発達、流暢さの発達、第二言語ライティング指導
西岡 亜紀	比較文学・文化、日本文学・文化、声と図像のメディア、文章表現教育
平田 裕	筆記テスト時と日本語会話時の脳活動の近似性と相違性
山崎 のぞみ	話し言葉文法を解き明かす

卒業論文のテーマなど、より詳しい情報はこちら





デザインとアートが会う。
 今までの教育の枠組みにはなかった、新しいスタンダード
DESIGN×ART

[衣笠キャンパス]

デザイン・アート学部



■ デザイン・アート学科

その感性を世界に解き放つ 多様な実践を通じてクリエイティブに学ぶ

立命館大学デザイン・アート学部は、デザインとアートを別々のものとして捉えるのではなく、一体的に学ぶことのできる学部です。論理的に課題を捉えて解決へと導く力と、自らの美的感性をもとに今ある物事の意味を問い直し、新たなかたちで表現する力。その両方を自由に行き来できることこそが、これからの社会で求められる創造性であり、本学部が育みたい力です。

AIの進化や社会の複雑化が進む今、人の心を動かす感性、多様な人々と協働する姿勢、そして自ら動き出す主体性がますます重要になっています。本学部では、こうした力を身に付けるため、多様なプロジェクトを実施していきます。また、学びをキャン

パスの中に閉じるのではなく、まち全体を「ラーニングプレイス」として、キャンパスの外に広がる地域や企業、施設などと連携していきます。

文系・理系という従来の枠組みを超え、デザインやアートを軸に多様な分野を横断して学べるのが本学部の大きな特徴です。「実践と省察」を繰り返すことで、自らの豊かな美的感性を磨き、世界を理性と感性の両面から捉える力を養います。こうした学びを通じて、複雑な社会課題に創造的な視点で挑み、世の中に新たな問いを投げかける「CX(クリエイティブ・トランスフォーメーション)人材」を育成します。

学部の特色

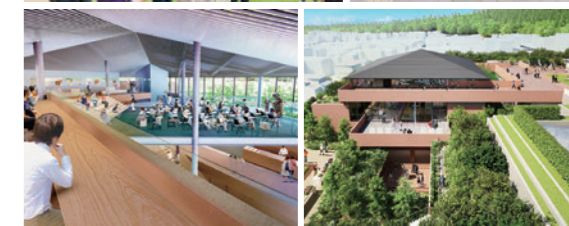
京都のまち全体がラーニングプレイス — 京都で世界を学ぶ —

あなた自身のプロジェクトを、京都のまちにぶつけていきましょう。ふせんにアイデアを書き出すだけでも、スライドショーで発表するだけでもありません。現実のまちを舞台にして、あなた独自のプロジェクトに挑戦できます。現場で培った経験がもととなり、学びがさらに深まるでしょう。また創造のための設備なども充実しています。本学部では、皆さんの感情や思考を表現するためのあらゆる設備をそろえています。水彩や油彩の画材だけではなく、例えば、

木材やアクリルをカットするためのレーザーカッター、立体的な造形物を創作できる高精度な3Dプリンタ、塗装ブースも完備するなど充実した機材をそろえています。充実した施設と機材、そして教職員が皆さんの挑戦をサポートします。



充光館 (画像はイメージです。)



新棟 (現段階で建設・整備が計画されている建物・施設のイメージ図です。)

多彩な実践による、クリエイティブの力で社会を変革する人材の育成

デザイン・アート学部での学びは、プロジェクトの実践を抜きにしては成り立ちません。皆さんの問題意識を掘り下げて、独自の課題を設定し、プロジェクトのかたちで探究してみましょう。学内リソースを用いるだけでなく、企業や自治体などとコラボレーションする機会も豊富に用意しています。産学連携のプロジェクトや地域内での取り組みを通じて、個々の学生が社会実践のプロセスに参加していくことが期待されます。

■ プロジェクトの実践例

DA × インダストリアル

グローバルな都・京都から
 コラボレーションで
 世界へ発信していく

京都は世界中で知られているグローバルなまちであり、海外に目を向ければ、日本のアーティストやデザイナーは日本国内以上に評価されている側面もあります。京都に根付く伝統工芸や職人の技とテクノロジーをつなげて、これまでにない価値を創っていく。インダストリアルデザインを軸に、プロジェクトを実際にかたちにしていきます。

DA × 工芸

工芸産業における
 つながりをデザインする

工芸作品の原材料や道具がどのように作られ、使われているのかについて学んでいくと、地域や国を超えたつながりが見えてきます。産業としての工芸に注目し、生産者、制作者との結びつきをみていくことで、改めて日本を深く理解することを試みます。国内のさまざまな地域と連携しながら工芸産業の活性化に関わるプロジェクトを展開します。

DA × 海外発信

工芸の文化や技術を
 海外に発信する場をつくる

日本が誇る手仕事の技術は今、世界のグローバル企業やハイブランドから注目を集めています。しかし、その歴史や職人の高齢化、伝統的な材料の枯渇といった現状をきちんと伝えることのできる人は減る一方です。京都の神社仏閣や歴史ある企業と連携し、日本のものづくり文化を分かりやすく海外へ発信していきます。

DA × 芸術祭

まち全体をアートの空間に見立て、垣根を越えたイベントをデザインする

古い町並みが残る京都には、まちのあちこちに小さなアートの空間があり、生活と芸術が近接しています。学内のギャラリーを中心としながら、まち中にあるギャラリーや、町家などに作品を展示する芸術祭も、京都でならできるかもしれません。出展者と参加者の垣根すらも越境した、参加型のイベントデザインを試みます。

DA × 行政

地域の持続可能性と豊かな生活基盤をデザインする

人口減少が進む中で、行政は地域の持続可能性と向き合っていく必要があります。行政組織、自治体、中央省庁などの市民の生活を支える公的機関が、どのようにデザインの手法や考え方を活用しているのかという観点で、ソーシャルデザイン、ソーシャルイノベーションについて研究を行います。京都というコンパクトな都市部を中心とし、農山村も有する地域の特性を生かしながら、実践と理論を結びつけ、活動していきます。

DA × 考古学

考古学的な手法を生かして、
 レジリエンスのある社会をつくる

変化の大きい時代において、豊かなレジリエンス(頑健性と柔軟性)を有する社会の構築が求められています。縄文時代を対象とした考古学では、儀礼というものがレジリエンスを育む要素であったことが明らかになってきています。そんな考古学の手法を生かして、問題発見力、創造的思考力、技術的解決力、問い直し力といったレジリエントな社会を構築するために必要な能力を培っていきます。

DESIGN × ART

論理的に問題を整理し、解決へと導く力。自分の感性で意味を問い直し、かたちにする力。

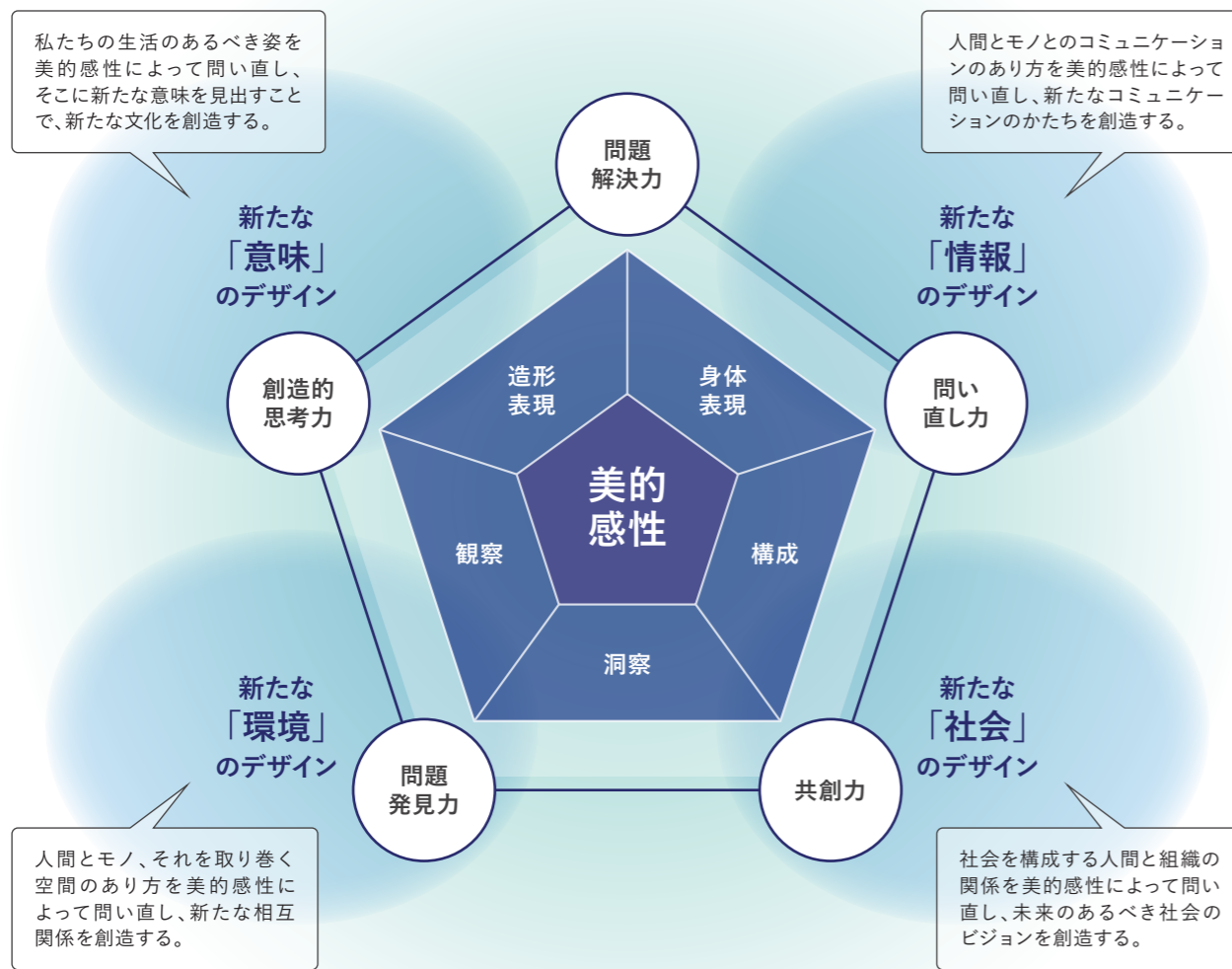
この2つのアプローチを自由に行き来できるデザインとアートこそが、

これからの社会に新たな価値をもたらす鍵となります。

デザイン・アート学部は、これらの力を兼ね備えた創造的人材を、

多様で複雑な社会課題に新たな視点で挑む存在として、育成していきます。

育む5つの能力と、応用する4つの分野



[2026年度 教員・研究テーマ一覧]

赤間 亮	文化資源・デジタルアーカイブ	前崎 信也	京都・地域の芸術・文化	中山 郁英	デザインと社会のマネジメント
石原 尚	アンドロイドロボティクス	松葉 涼子	美術・工芸・造形文化	橋口 哲志	知覚メディア・感性情報
井登 友一	デザインとイノベーション	迎山 和司	デジタルアート	磯邊 美香	コミュニケーションデザイン
岡田 万里子	身体表現・音楽・芸能文化	八重樫 文	デザイン理論	伊東 和輝	生物規範ロボティクスのデザイン
大島 陽	デジタルデザイン表現	山下 範久	デザイン・アートと国際社会	加藤 明洋	デジタルアート
上平 崇仁	デザイン文化の創造	飯沼 洋子	フィジカルアート	杉山 直樹	デザイン方法・評価・分析
木村 修平	ICT・AIを活用した英語教育	小田 裕和	ストラテジックデザイン	戸塚 史織	デジタルアーカイブ
桐村 喬	建築・地理空間情報	北本 英里子	建築・空間設計	南井 勇輝	バーチャルリアリティ
中村 大	デザイン・アートと歴史	木村 智	建築理論・建築史	堀内 悠希	フィジカルアート(2026.9月着任予定)
中山 雅人	フィジカル/サイバー空間デザイン	佐藤 弘隆	まちづくり・文化財保存		

4年間の学び

	回生	1回生	2回生	3回生	4回生
学びの流れ		デザイン・アートに特有な見方・学び方の基礎を固める	「生成への参加」と「概念化」によって、自己の課題を明確化する	「生成への参加」と「概念化」の反復によって、自己の課題をより深く探究する	「生成への参加」と「概念化」の反復による、社会価値創出プロセスをまとめる
Design in Society [DIS] 科目群		プロジェクトの実践から学びます	デザイン学 生成プロジェクト演習1 デザイン学 生成プロジェクト演習2	デザイン学総合研究1 デザイン学総合研究2	卒業演習1 卒業演習2
Design Studies [DS] 科目群		デザイン学1 デザイン学2	デザイン学3A デザイン学3B デザイン学4	デザイン学5 デザイン学6	
デザイン・アート学部	技能群 [S]	[デザイン・アート技能基礎] デザインリサーチ Webデザイン基礎 デザイン・アートのための製図	デザインリサーチのためのアカデミック・ライティング	[アート表現基礎] デジタルアート表現基礎(絵画) デジタルアート表現基礎(立体造形) フィジカルアート表現基礎(身体パフォーマンス)	
	専門 [M]		美術品・工芸品のデジタル化技術 工芸・美術・芸能の社会活用 デザインとバーチャルリアリティ コンピューターグラフィックス コミュニティデザイン	ジオデザイン アートマネジメント演習 ワークショップデザイン デジタルアート表現応用(インスタレーション) フィジカルアート表現応用(インスタレーション)	
	知識群 [K]	導入 [I] 専門 [M]	[デザイン・アート知識基礎] デザイン理論 グローバルデザイン論 人間中心デザイン論	京都・伝統文化論 芸術批評論	[デジタルアート表現基礎(絵画)] デジタルツールを用いた絵画制作において、物理的な対象をどのようにデジタル化し表現できるかを問います。デジタルにおける自在な表現空間への変換によって、既成概念を問い直す表現プロセスを通じた自己変容を促し、デジタルツールを用いた絵画制作技法の修得だけでなく、デザイン・アートの学びを社会に展開するための基本的な姿勢を獲得します。
Design Language [DL] 科目群	導入 [I] 専門 [M]	知識群 [K]の科目は時間と場所に縛られないオンデマンド授業を実施します	建築情報論 歴史まちづくり 戦略的デザイン論 デザイン・アートと国際社会	視覚芸術表現論 現代アート論 デジタルメディアデザイン論 デザインと人間工学	
外国語	英語				

・上記は2026年度のカリキュラムです。 ・上記の科目は、各科目群の代表的な科目を掲載しています。
 ・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識修得を目指す科目を多数履修することができます。 → 教養科目 P.102

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#) [立命館](#) [検索](#)

関連する進路・資格・想定されるキャリア

卒業後は、この学部で培った人の心を動かす「美的感性」や「創造性」があらゆる分野で生かされます。企業等への就職や大学院進学などのこれまでの進路・進学だけでなく、次のような活動やキャリアモデルも想定しています。

新たなキャリアモデル想定の一例

ビジョンデザイナー*	デザインストラテジスト*	ビジネスデザイナー*	クリエイティブディレクター アートディレクター
------------	--------------	------------	----------------------------

社会の動きから憶測される未来の姿を提示する。人や社会のあるべき姿への問いを投げかけ社会を巻き込みながら未来の体験をプロトタイプングし、表現する人材。

自社組織のリソースである人、テクノロジーなどを熟知し、組織ビジョンに基づいて事業戦略、組織戦略、デザイン戦略を合致させる人材。

社会的・経済的コンテクストを踏まえて、新しいビジネスやサービスの開発を通して社会に存在する問題への斬新で実現可能な解決策を示す人材。

組織への共感や信頼を高めるためのさまざまな施策・ツール等の企画立案から制作までの全ての工程をまとめる人材。

*出典：「高度デザイン人材育成の在り方に関する調査研究報告書概要版」/経済産業省・株式会社コンセント/2019年3月29日

取得できる資格

学芸員

進学先

大学院(デザイン・アート学研究科/海外デザイン系またはアート系大学院など)

など